

ボーイスカウト東京連盟
あすなろ地区 広報誌
第22号

2018年 9月 9日
組織拡充委員会

第17回日本スカウトジャンボリー感想文 特集

目次	地区役員挨拶	1
	第1隊(東京第23隊) 中野11団、杉並6団、杉並9団、杉並11団	3
	第2隊(東京第24隊) 中野8団、杉並9団、杉並12団、杉並13団	13
	第3隊(東京第25隊) 杉並2団、杉並3団、杉並4団、杉並5団	22
	大会本部スタッフの報告	35
	香港スカウトホームステイ	37

「人財」を大切に

協議会長

岡村 實

第17回日本スカウトジャンボリーに参加スカウト、引率リーダーの皆様、大変お疲れ様でした。石川県珠洲市「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」での一週間のキャンプ生活から無事に帰られ、後方支援の担当者として安堵しています。

参加スカウト達への想いを私なりに下記の3点にまとめてみました。

1. 全ての人々に感謝を

壮行会でもお話しましたが、スカウトの皆さんがジャンボリーに参加できたのは、隊指導者や団関係者、更には皆さんのご家族の支援があつての賜物です。現地でのジャンボリーのスタッフを含め、お世話になった人達に感謝の気持ちを忘れないで下さい。

2. 人的ネットワークとしての人財

あすなろ地区混成隊として参加し、他団の仲間と交流し、更にはジャンボリー会場での海外のスカウトを含め、多くの人と接したと思います。この交流こそが、皆さんが今後のスカウト活動だけでなく、人生の中で生きる事があります。今回得た人脈こそ皆さんの財産、すなわちこの「人財」を大切にして下さい。

3. ジャンボリー経験を基に更なる成長

スカウトの皆さんにとって、今回のジャンボリーで経験した事は皆さんの財産です。この経験は得難いものです。経験は人間の成長に大きく貢献する要素の一つです。スカウトの皆さんも、是非今回のジャンボリー経験を基に大きく成長して下さい。

スカウト達のジャンボリー参加に対して、ご尽力していただきました杉並区保健福祉部児童青少年課をはじめ、あすなろ地区、各団の皆様感謝すると同時に、今後のスカウトの成長にご支援・ご協力をよろしくお願いします。



参加で得た糧で大きな華を！

地区委員長 佐藤 武信



スカウトの皆さん、指導者の皆さん、スタッフの皆さん、今回のジャンボリーは如何でしたか！。それぞれの立場でたくさんの体験をし、また多くの経験を積むことができ、日頃から苦楽を共にしている仲間や指導者と、5泊6日の大会期間を含め、7泊8日の長期キャンプを思う存分楽しんだことと思います。

普段は1泊から3泊程度の期間で、班キャンプや隊キャンプを行っていると思いますが、7泊8日の長期キャンプをなし終えた今、皆さんは「やりきった」という充実感と、「またやりたい」という欲求に駆られているのではないのでしょうか。

期間中のプログラムは多岐にわたり、体験や経験中心のプログラムだけではなく、スカウトスキルを活用した「日本一」を班で争うプログラムも今回新たに導入されました。

まさにスカウティングの原点で、スカウト活動そのものである「対班競点」が実施され、「コンパス」部門で、あすなる地区の班が「第2位」と「第3位」に輝きました。これは我が地区の誇りであり、今後それぞれの班が隊内へ、そして地区の技能訓練やラリー等で水平展開されることを期待いたします。

また交流活動に関しては、国内スカウト達との交流は言うに及ばず、外国派遣団スカウト達との交流、そしてキャンプサイトでの共同生活することとなった香港派遣団スカウト達との交流は、素晴らしい体験そして経験となったことと思います。

さらには大会の終了後に、ホームステイを希望していた香港派遣団スカウト9名（男子6名、女子3名）も、8月10日（金）から12日（日）の2泊3日間、受入いただいた4家庭の皆さんのご協力を得て、無事に終了することが出来ました。この誌面をお借りして感謝申し上げる次第です。

ジャンボリーに参加したことによって、皆さんや皆さんの班は大きく変身を遂げました。これは期間中、知らず知らずのうちに、多くの糧を得ることができたからです。

8月3日（金）の出発時と10日（金）の帰着時、明らかに皆さんは大きく成長したと私は確信しました。この期間に得た多くの体験や経験や見聞きしたことを糧として、皆さんの今後の生活に活かしていただき、大きな華を咲かせて頂きたいと思います。

結びにあたり、引率頂いた指導者の皆さん、大会運営に貢献されたスタッフの皆さん、参加スカウトを支えていただいた保護者の皆さんに、改めてお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

追伸：4年後2022年開催の18NSJは、東京連盟がホスト県連に決定し「東京」での開催が決定されました。

日本連盟創立100周年の記念すべき年でもあります。ぜひ、大きく咲かせた華でお迎えしたいものです。

隊の夏キャンプをジャンボリーで 地区コミッショナー 下地 俊一

第17回日本スカウトジャンボリーが石川県珠洲市にて「冒険 ―能登のチカラ未来へ―」をテーマに、2018年8月4日から8月10日にかけて開催されました。

あすなる地区からも、参加隊スカウト91名、参加隊指導者23名、大会本部スタッフ9名、県連盟派遣団本部スタッフ2名、計123名が参加しました。期間中は天候にも恵まれ、皆楽しく過ごし、大きな怪我・事故もなく皆無事帰着しました。

地区の17NSJ Facebookサイトには、競技・イベントに興じるスカウトの元気一杯の写真が数多く掲載されておりました。また、あすなる地区のエリアには香港隊7名が合流し、海外交流を楽しむことができました。

今回特徴的だったのは、元々所属している隊（原隊）をベースに、各隊を組成したことです。前回の日本ジャンボリーでは、40名からなる地区隊を2隊組成して参加しましたが、今回は1原隊からの参加者をそのまま1隊とし、全部で12隊組成し、区画割の都合で3個（東京23隊・24隊・25隊）にグループ分けしました。各隊には原隊の指導者に入って頂き、その結果、今回は指導者8名でしたが、今回は23名と大幅に増えました。

これは、今回のジャンボリーの「原隊の夏キャンプをジャンボリーで」という方針に従ったものです。他地区では一部もしくは全部に地区隊を組成したところもありましたが、あすなる地区では原隊ベースにこだわりました。

その効果は今後分析しますが、班での事前訓練が十分実施でき、いつものメンバーなので疎外感を感じることもなく、結果として時々発生していた「脱走者」も発生せず、細かい点はともかく、全体としては良かったのではないかと思います。

他にも、嬉しいニュースもありました。場内で実施された「ジャンボリーゲーム日本一」の「コンパス競技」において、ボーイ7人班で「杉並11団」が2位を、ボーイ5人班で「杉並6団・8団」が3位を獲得した快挙です。

出発前の壮行会で「できたら日本一の1つや2つ、獲得してきて欲しい」と発破をかけたのですが、それが本当になるとは正直思っておりませんでした。本当にうれしく思います。

4年後は東京で日本ジャンボリーが開催されます。皆で力を合わせて成功させましょう。

最後になりますが、ジャンボリー参加にあたり、杉並区役所、立正佼成会、杉並公会堂、宮園バス、スカウト保護者、地区内指導者、他多くの方々にご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。



第1隊 (中野11団、杉並6団、杉並8団、杉並12団)

中野11団

中野11団 VS隊 東條 英臣

今回のジャンボリーで様々な経験をし、多くのことを学ぶことができたが、印象深かった二つを選んで取り上げたい。

一つはジャンボリーが始まる2ヶ月前ぐらいから準備していた交流会だ。当初の予定では長崎1隊と滋賀4隊とあすなろ1隊との交流だった。ジャンボリー会場で再度の話を聞いてみると、急に大阪の隊も加わると聞かされた。突然約40人も増えて大丈夫か心配したが、結局、交流会は成功し、みんなが楽しんでくれたのでとても嬉しかった。

今回の交流で良かった所は、スカウト同士で終始連絡を取りながら計画し、実行したことと、遠い場所の仲間たちに出会えたことだ。

反省点は、計画や連絡が遅れ、リーダーたちに迷惑をかけたことである。今後このような機会を得られた時は、今回の反省を活かして、早くから報告、連絡、相談と計画をしようと思う。

もう一つは班の生活である。私が以前に参加したジャンボリーでの班は、年齢に差がありすぎて、親密な関係になれなかった。しかし今回の班では全員高校生で、分け隔てなく接することができ、ジャンボリーが終わった次の日に遊びに行くほど、仲良くなることができた。いつかみんなで計画して、キャンプに行きたいと思う。

今回のジャンボリーでは自分自身の成長と共に、他団とのつながりを作ることができた。今後は今回できた縦と横のつながりを大切にしてスカウト活動をしていきたい。



中野11団 VS隊 高橋 風芽

今回のジャンボリーは、今までのボーイスカウト活動で、最も楽しく充実したキャンプだった。

他県のスカウトと交流するような機会は滅多になく、またその出会った人たちとスカウトとしてだけでなく、普通の友達のようにラフで、カジュアルな、スカウト生活としては少し不思議な雰囲気の中で出来上がる関係性には、今まで経験したことのない魅力があった。

また、世界ジャンボリーに参加する人と、事前に知り合えたのも嬉しかった。日本ジャンボリーで仲良くなった人は、大抵が遠くに住んでいて、普段は会えないが、世界ジャンボリーで再会できると思うと、楽しみも増える。

「ジャンボリーは夢であった」、誰も思いつきそうな平易な例えだが、考えるほど、思い出すほどそう感じるのだ。一番それを強く感じたのは、東京に帰ってきた直後、荻窪駅から丸ノ内線に乗り、中野坂上駅に着き、駅から歩いて帰宅している時だった。その時感じたのは違和感だった。

よく人の話として耳にする、例えば「一週間山奥で自給自足の生活を体験した人が、都会に帰ってきてコンビニやスーパーなどの便利さを酷く痛感した」とかに見るように、不便なジャンボリーから便利な東京に帰ってくると、自動販売機やファミレスのありがたさをひしひしと感じるのだろうと、出発前、ジャンボリー中も考えていた。

しかし、実際には轍のないコンクリートの道に、傘を差したら空が全く見えなくなってしまうような、自分を取り囲む高層ビル群にありがたみなど感じず、食料のあふれかえるコンビニに、さながら憎悪を見る程だった。それは理由など説明しようもなく、ただ感じるものだった。もはやジャンボリーから帰ってきたら、現代社会に、文明の利器にありがたみを感じる、それ自体が夢であったように感じる。



中野11団 BS隊 木村 恒陽

今回ジャンボリーに参加して、3つの体験が心に残った。

1つ目は班長だ。中野11団は2名の参加で少ないなか、初めての班長をやり、グリーンバー会議に出た。グリーンバー会議は自分の意見を言うことが多く緊張したが、いい経験が出来た。

2つ目はプログラムだ。2名では参加できないため、人数の多い杉並6団、8団と混成班を作った。その中でも班長をやった。初日はまだ緊張している人もいたが、多くのプログラムに挑戦しているうち、仲良くなれたので良かった。



1名が体調が悪く、僕だけになった時、杉並6団、8団と夕食を一緒に食べたので、全員と交流できた。

3つ目は香港スカウトとの交流です。中野11団には2名のスカウトが来てくれた。最初は全然会話ができなかったが、1名が日本語が上手な方で、日本語と英語で会話ができ、最終日には「班長！頑張ってる！」と言ってくれた。

今回、日本ジャンボリーに参加でき、必要な経験と楽しい思い出になったので良かった。次回、指導者として東京ジャンボリーに出たいと思った。

中野11団 BS隊 金田一 隼

出来たこと

- ・いろいろな人と交流できた。
- ・ほかの班と協力出来た。
- ・プログラムはほとんどできていた。
- ・他の県と交流できた。



できなかったこと

- ・時間が守れなかった。
- ・食事にかかなりの時間がかかった。
- ・他のリーダーに迷惑をかけてしまった。

感想

- ・途中、体調を崩してしまったが、楽しいキャンプになった。

杉並6団

杉並6団 VS隊 井上 元紀

私がこのジャンボリーを楽しんだ理由の一つが、ベンチャー班としての参加だった。リベロ班は私を含む高3が2人、高1が5人という班編成で、班長は高1にやってもらった。班長は決まっていたが、全員がベンチャースカウトで、基本的なスタンスはそれぞれ考えて指示する形で、ジャンボリー前半はなんとなく遠慮したり、特徴がつかめずまとまりのない班で、班長会議でも「ベンチャーなんだから」と、たびたび言われてきた。

しかし設営が終わり、香港スカウトが来る頃になると、班員も打ち解け始め、それぞれに役割を持ち始めた。「誰が何を指示して行動していく」と決まれば、行動にも余裕が生まれ、他班の指導をすることも増えていった気がする。

良くも悪くも全員が適度な性格なので、上下関係もなく、ほぼ初対面のメンバーが多いにもかかわらず、仲良くなるには時間がかからなかった。今ではジャンボリーが終わったのに、週一の程度で一緒に遊ぶほどである。全員がそれなりに経験を積み、技能を持ち、意欲的なスカウトでまとまった班というのは私に初めてのことであり、言わなくても分かる以心伝心があるような楽しい班だった。こんなにモチベーションが高い班で活動できることは、先にも後にもこのジャンボリーにしかないと思うので、特に心に残るスカウト活動として、一生の思い出になるだろう。

ただ、一つだけ心残りの反省点がある。それは撤営中に熱中症で倒れてしまったことだ。体調管理はしたつもりだったが、時間がない中で倒れ、動けない時間を作ってしまい、班や隊のメンバーに申し訳けなかった。今後は適度に休憩することを徹底していきたい。



杉並6団 BS隊 菊池 巧真

ジャンボリーに行けたことはとても良い経験になり、一生忘れることのない思い出となった。

ジャンボリーに行く前は友達ができるのか、長い期間、仲間と協力できるかとても不安だった。しかし、実際に行ってみると、他の隊の人たちが挨拶をしてくれたり、ハイタッチを求めてきたりして、簡単に友達ができ、また他の県のスカウトとの交流会でも、みんなで盛り上がっているうちに自然と友達が増えてきた。開会式やジャンボリー大集会、閉会式では、みんなで立ち上がるほど盛り上がった。

ジャンボリー日本一ゲームでは、コンパス5人班の部で3位になることが出来た。これは普段の訓練の成果が発揮されたからだろう。プログラムゲームでは、砂浜のストラックアウトゲームで数チームしか達成していないパーフェクトを達成し、杉並6団と8団の名をジャンボリー会場のボードに残した。



夜は星がすごくきれいで、天の川も見えたし、流れ星は数十回見る事ができた。友達ができて楽しかったので、最終日がとても辛かった。そんな思いで会場をあとにしたが、バスの中で写真を撮ったり、盛り上がっているうちに、辛さは消えていった。

来年は世界ジャンボリー、その次は日本ジャンボリーの東京大会が行われるので、今回のジャンボリーで得た体験は、これからのスカウト活動に活かしていきたい。

杉並6団 BS隊 西田 龍生

今回のジャンボリーは能登の珠洲まで行き、普段のキャンプと環境や人数などが大きく変わった貴重なチャンスで、たくさんの人との出会いの中で、多くのことを学びました。

また、今回のキャンプではいつもと設備が違うことによって、初めのうちはトラブルがありましたが、その後は大きなトラブルの発生がなく、無事に終わりました。

今振り返ると、炊事の場面で、多くのスカウトは働いていたのですが、仕事がなかったり、本人の働く気がなかったりして、休憩ではなく、働いていない人がいる場面が見受けられたように感じました。

今回のジャンボリーでは交流イベントや行事で、多くのスカウトとの交流がありました。

その中には、いまだに連絡のある人もいます。また、香港スカウトとの交流もあり、他の地域の文化などを感じられました。

今回の珠洲の環境は素晴らしく、東京に帰った後も、何とも言えない寂しさがまだ残っています。キャンプを終えて、多くの改善点を見つけられたので、今後のキャンプなどで直せる良いテーマを得ることが出来たと思います。



杉並6団 BS隊 白石 彩乃

私は初めてジャンボリーに参加して、配給を担当しました。はじめの頃は大変だと思いましたが、1時間並んでいる時に、杉並11団、中野11団の人と話したりしていたので、配給の時はいつも楽しく感じました。

また闇市のような雰囲気や毎日路上販売をしている所では、第1隊の少数の人数で、最後の2日間だけ行き、いろいろなワッペンやネッチリングと交換できて良い思い出になりました。

4年後に開催される日本ジャンボリーは、今までにない都市型のジャンボリーになると聞いたので、次もぜひ参加したいと思います。



杉並6団 BS隊 横山 禪

僕は今回のジャンボリーで気づいたことは二つあります。

一つ目は違う隊や国の人も関係なく、みんなフレンドリーで優しかったことです。

二つ目はボーイスカウトは頭を使うんだな、と思いました。それは地形図や工作などでも算数で工夫し生活で使うと、とても便利なのですごいなと思いました。

良かった事はテントが張れるようになったことです。

前回の春キャンプでは、なんとなくしかわからなかったのですが、ジャンボリーで習得しました。まだまだできないことはたくさんあるので、今回のジャンボリーを生活に活かしていきたいです。



杉並8団

杉並8団 VS隊 花輪 陽

今回のジャンボリーが初めてのジャンボリーで、行く前にはいろいろ不安がありました。

荷物がどれだけ重いか、ベンチャーらしい行動がちゃんとできるかなど、いろいろありました。でも出発してバスの中で、その不安は消えました。今までで一番楽しいキャンプ生活でした。

世界ジャンボリーには行きませんが、次の2022年に開催される日本ジャンボリーで、スタッフとして行きたいです

次の日本ジャンボリーに、もしリーダーとして参加した時は、スカウトと一緒に遊ばず遊ばないように、指導者として気を付けたいです。



杉並8団 BS隊 鈴木 結香

知らない人と仲良くなれて楽しかった。外国の人とも交流できてよかったと思う。
だけど毎回料理ができるのが遅かったり、働かないで遊んでいる人がいたりして、チームワークという点ではグダグダだった。

これからはきちんとしていきつつ、自分の仕事もきちんとして、次のジャンボリーにつなげたいと思った。



杉並8団 BS隊 松岡 遼

今回初めてジャンボリーに参加した。一週間も開催するだけあって、とても有意義な時間を過ごせたが、その分反省点も多かった。いくつかここに挙げ、ジャンボリーの反省にさせていただく。

①水汲みをするのに時間がかかりすぎる。

今回のジャンボリーのサイトは、水汲み場から遠い位置のため、水汲みが大変で、水汲みが遅いせいで多くの作業が遅れてしまうことになった。水汲みといえば9日の夜、全員のポリタンに水を汲みに行ったが、戻ってきたとき、他のサイトの人は「ありがとう」などと言ってくれたものの、自分のサイトの人はメンバーの怖い話に夢中で、何も言わなかった。それが目的ではないけれど、一言くらい言ってくれてもいいのに…ブツブツ。反省文でグチを言っている場合ではない。結論としてはできるだけ早く動くということだ。

②自分勝手な行動が多い。

今回も勝手な行動をしてよく叱られた。これは今に限ったことではないのだ。毎回これで怒られているうえ、すぐ忘れてしまうから自分がいやになる…。いやいや、そんなことを書くべきではない。冷静に失敗を分析し、解決に向けなければ、というわけで、この問題は忘れてしまうことだ。だからメモ帳などを持ち歩き、失敗を一回ずつ書き込むのだ。我ながらいい方法だ。ただしメモ帳の存在さえ忘れてしまうと、元も子もないので、そこは注意しなければならない。

ここまで二つの失敗を分析したが、他にため息が必要なほどやらかしてしまっている。あげ出すときりがなく、思い出したくないほど恥ずかしいものがあるので、以上でジャンボリー報告と反省文とさせていただく。



杉並8団 BS隊 三枝 真杜

ジャンボリーで楽しかったことは、開会式や大集会、閉会式などです。

その中でも最も楽しかったのは開会式です。開会式はいろいろな人物が来ました。例えばいろいろな国の人達や石川県の知事などが来ました。他にUNBRANFORDのライブ、参加国や各県連の旗の入場、いろいろなスカウトのパフォーマンスなどがあって楽しかったです。

ほかにプログラムではアースエリアのグランドゴルフや、マーキュリーエリアのローマ戦車や、サンドアートなどが楽しかったです。グランドゴルフは見事に負けて、ローマ戦車は2位ぐらいで、サンドアートでは東京スカイツリーを作ろうとして失敗しました。

ジャンボリーでよくなかったことは、1番目にシャワーが冷たかったことです。シャワーは暖かいと思っていたら冷たく、浴びたあとは寒かったです。

2番目はトイレや水場が遠くて、水汲みに行くときは大変でした。

他によくなかったことは、テントに虫が入ってくることでした。僕は家型テントで寝ましたが、ガヤコオロギなどが入って、いやな目に会いました。

全体では疲れた時もありましたが、楽しかった時が多かったです。



杉並8団 BS隊 オドネル ジャック 航

このジャンボリーはとても楽しく、魅力的で冒険心に富んだものでした。

バスを降りると、暑いなか重いバックをかついで、1キロも歩かなければなりませんでした。暑かったので、はじめにわれわれのテントを立てました。ここで私はドームテントをどのように立てるのか、知ることができました。隊のテントを立てたあとは、すごしやすくなりました。

このジャンボリーでとても楽しかったことは、班員とともに参加した活動です。われわれが「ゴールドドッジ」ゲームでベンチャースカウトに2-1で勝った時はとても嬉しかったです。また「ストラックアウト」ゲームでパーフェクトだったことも誇りといえます。

ほかの人とバッジを交換したこともいい思い出です。そしてたくさんの友だちを作ることができました。

多くの人と一緒にアリーナでショーを見た時は、エネルギーのレベルが最高水準になって、とても楽しい時間になりました。けれども残念なこともありました。それは「火起こしゲーム」に参加できなかったことです。

しかし、全体ではとても魅力的で冒険心に富んだものでした。「コンパスゲーム」で3位を獲得したことも、とても嬉しかったです。

(※英文の感想文でしたので、編集者の責任で訳しました)



杉並8団 BS隊 オドネル ウィリアム 陽

ジャンボリーは楽しかったです。ジャンボリーの良かったことは、いろいろな人と会えて友達を作れたことです。あと、開会式、大集会と閉会式ではとても盛り上がって良かったです。

ゲームでは日本プログラムに挑戦して、3位になれて嬉しく思いました。ジャンボリーの料理の味は美味しかったです。悪かったことは、体の調子はマアママだったものの、お腹が痛くなったことです。

次のジャンボリーには、後輩のスカウトにいろいろなことを教えて、ボーイスカウトの輪を広げていきたいと思います。次のジャンボリーに行きたいです。



杉並11団

杉並11団 VS隊 吉岡 優奈

今回私は第1隊のベンチャー隊のスカウトとして班に参加した。それによって普段の活動に関わることなかった他団のベンチャー隊とジャンボリーを一緒に過ごすことができ、とても楽しかった。

時間の管理について反省すべき点も多くあったため、今後のスカウト活動でもそれらに気を付けていきたいと思う。

また、交流会を2回行い、滋賀や大阪、長崎、愛知、また香港のスカウトともワッペンの交換や、ゲームを通して絆を深めることができた。今回初めて日本ジャンボリーに参加して、とても楽しく充実していたので、次回の日本ジャンボリーでは大会スタッフや指導者として、ぜひ参加してみたいと思う。



杉並11団 VS隊 佐藤 颯

ベンチャースカウトとして参加したこのジャンボリーは、学べたことがたくさんあった。

今までアグーナリーへの参加はあったが、ジャンボリーという、スカウトとして夢みていた行事に参加でき、とても嬉しかった。

ジャンボリーに参加してみて、自らの技術や指導を見直し、高めることができた。私が今まで身につけてきたロープワークは、設営に活かすことができたが、技術が完璧でなかったことによって、作ろうとしていた「サイトの門」を作ることができなかった。ところが期間中に交流した香港のスカウトはロープワークに優れていて、私たちも教わりながら門を完成することができた。

交流をすることによって得るものは友情だけでなく、技術も得ることができるのだと感じた。



今回、ベンチャーで1つの班を編成した。ベンチャー班にしたことで、自分たちを見直すことができた。序盤、私たちはボーイの指導どころか、キャンプ生活すらきちんと行えなかった。隊のリーダーからの指導を受け、徐々に今までのキャンプを思い出すことができた。ベンチャー班では、普段それぞれが指導していることを自からが行動しようとするとうまくいった。

また、私は交流会の設定の担当となったことがあり、少し指導者側に寄った経験もできた。指導者は自らのことが完璧にできないと担うことができない仕事だと感じた。これから先、スカウトを続け、指導者を目指していく上で、とても良い経験になった。

交流、指導、自分の技術を見直す、というたくさんの面でとても良い経験をすることができ、平成最後の夏をボーイスカウトに注いだことはとても良い決断だった。来年の夏も勉強、部活と両立させ、ボーイスカウト、世界ジャンボリーに夏を注ぎたい。

また、今回のジャンボリーで得た自らの反省を来年の世界ジャンボリーでも活かしていきたい。

杉並11団 VS隊 大森 直幸

僕のボーイスカウト生活で初めてとなるジャンボリーは、最初から最後まで、いつもキャンプ生活とは違ったものでした。今回のジャンボリーでは、あすなろ地区のベンチャーの7人で合同班を作ることになり、いろいろな団のスカウトとジャンボリーを楽しむことになりました。

ジャンボリー初日はバスに乗り疲れた頃、石川県珠洲市に着き、バスを降りると待っていたのは、灼熱の太陽と強い日差しでした。

そんな中で始まったジャンボリーのプログラムの班旗立てで、20分以内に竹を麻ひもでしばって、どれだけ高く自立できるかというゲームでは、後半の時間で失策し、最後は傾いて倒れてしまい、みんなで大笑いしました。



その他のプログラムの「那須与一」では、弓の弦が弱く、強く引きすぎたせいで弦が切れてしまいました。

このジャンボリー中には、香港のスカウトと一緒に活動したり、他団のマーキーやロープ結びなど、団それぞれの特色が見れて良かったです。

5日目の友情ゲームでは、インドの女の子と仲良くなったりと、地元の日本でたくさんの国際交流が出来て、良い経験になりました。



このジャンボリーでは、自分の欠点や課題が分かりました。欠点はロープ結びなど、何度も繰り返して練習すればできる結びができなかったことで、課題は共通言語である英語をもっと上手に話せるようにすることです。

この二つを直して、来年の世界ジャンボリーと今後のスカウト生活に役立てたいです。



杉並11団 BS隊 吉岡 大輝

- 3日 バスの中で他の団の人と話をあまりできなかった。
- 4日 設営をもう少し早くするため、全員が自分がすべきことを理解する必要があると思った。
- 5日 開会式で皆が盛り上がり楽しかった。
- 6日 竹材運びで1位タイの記録を出せて良かった。
- 7日 友情ゲームで他の地域の人と交流ができて良かった。
- 8日 日本一ゲームのコンパスで、自分の班だけ賞をとれなかったのが、普段から練習しておく必要があると思った。
- 9日 撤営もまあまあの速さで出来て良かった。
- 10日 初日とは違い、他の団の人と話ができて良かった。



班の目標として、全員が「自分のやることを理解し、言われる前に動く」ことだったが、最後の方は言わなくても動いてくれた。今回のキャンプを通して、普段の活動での時間の管理や技術の向上が必要だと感じた。

杉並11団 BS隊 奥村 政為

今回、ジャンボリーで一番楽しかったのは交流である。交流といっても、国内での交流だけでなく、国外の交流もした。様々な県、国の方々と話したり、物々交換をしたり、文化を知ったりでき、スカウトというつながりもあったので、人見知りなく、楽しく交流が出来た。

特に香港のスカウトとはとても仲良くなれた。自慢のようだが、自分は英語が話せる方で、英語を使って外国の方と会話が出来たことは、何よりも嬉しいし、楽しかった。

今回のジャンボリーで学んだことが二つある。

一つ目はいろいろなものありがたみを身にしみて感じた。1週間、文明から離れた生活をして、自分が恵まれていることを感じた。例えば普段なら水は蛇口をひねれば出るが、ジャンボリーでは給水場からキャンプサイトまで汲みに行かなければならなかった。こんな苦労を経て、様々なありがたみを感じた。

二つ目に自分は団の中でどうあるべきかで、自分の役割について真剣に考える機会になったことだ。自分は今、次長だが、最年長の立場なので、年下に仕事をさせる考え方で良いのか、自分をもっと班に協力し、働きかけるべきであろうか、それとも、まとめ役らしくあるべきか。自分は班員にどう働きかけ、何を求められているのか、逆に自分は何を求めているのか、改めてじっくり考え、学べる機会となったことを心から感謝したい。

ジャンボリーは終わったが、まだ何かやり残した気がしている。それは、まだ成長の伸びしろがあることだと思う。今回、学んだことを成長の糧とし、これからもスカウト活動に、また勉強にも頑張りたいと思う。



杉並11団 BS隊 高野 夏帆

今回初めて、長期のジャンボリーに参加しました。この8日間は長いようで短いものでした。ジャンボリーであったからこそ、毎日少しずつ改善していくことができました。いろいろなプログラムに挑戦し、自分たちのスキルも向上していったと思います。

①日本一ゲーム「コンパスナビゲーション」

基礎的なコンパスの使い方もしっかり練習して、このゲームに臨みました。その結果、「ボーイ隊7人班の部」で、日本第2位を獲得することができ、本当に良かったと思います。これからのボーイスカウト活動においても、基礎の技術を積むことを大切にしていきたいです。

②日々の点検

点検は8時、起床は6時です。この2時間の中で朝食、乾燥作業、サイトの整理を済ませなければなりません。それらを全て済ませるには、時間をこまめに確認する。そして次の行動の時間を把握しておく。

この二つが重要であると思います。

ジャンボリーのはじめには、殆んど8時に点検を受けられることがありませんでしたが、今回は長期のキャンプだったので、感覚をつかみ、しっかりと点検を受けることができました。

しかしながら、まだ改善しないとイケない部分もあるので、次回の点検では意識したいです。

③他国、他地域との交流会

普段の隊キャンプとジャンボリーの違いは、他の地域のスカウトと交流ができることでしょうか。香港から青森、長崎、インドなど、全く足を踏み入れたこともない地域と交流することは、とても新鮮でした。言語の違いを乗り越えて英語で話したり、方言を聞いたりするのは、理解できなくても楽しかったです。



杉並11団 BS隊 佐々田 詠哉

僕はジャンボリーでさまざまなことを学びました。そして隊キャンプや班キャンプより長い日数をキャンプできる日本ジャンボリーに参加できたことを嬉しく思います。

また、このジャンボリーには様々なプログラムが組み込まれていて、いつも退屈なんて感じさせないぐらい、とても楽しいプログラムでした。

僕はこのジャンボリーで学んで、体験したことなどを今後の活動に取り込んでいき、そして来年の世界ジャンボリーに行けるように、しっかりと準備をしていきたいです。



杉並11団 BS隊 大森 結衣

珠洲に着くとまず海が見えて、私はあまり海に行ったことがなかったので、きれいな海を見てびっくりしました。あとから聞きましたが、珠洲の海は日本一きれいらしいです。

4日は設営して、5日に開会式がありました。全国のスカウト約1万人が集まるところを見て、びっくりしました。男の子が多いのでノリが良く、ガヤガヤうるさかったけれど、楽しかったです。

1日目のプログラムはサターンとジュピターに行き、ボルダリングやスリングショットをしました。午後は竹材運びと丸太登りをしました。午前も午後も楽しかったです。

2日目のプログラムは、マーキュリーとアースに行きました。

マーキュリーではビーチフラッグ、サンドアートを行い、アースでは日本一ゲームのコンパスをしました。どのプログラムをとっても楽しかったです。

私たち第1隊は2日間、香港スカウトと交流をしました。フクロウ班には、アイシューという男の子が来てくれました。またトマスという男の子とはすごく仲良くなり、チーフリングをくれました。私が「トレード？」と聞いても、「ノー！プレゼント！」と言ってくれて嬉しかったです。また近畿地方のスカウトとも交流会を通じて仲良くなることができました。

友情ゲームは「そ、な、え、よ、つ、ね、に」の文字を集めるゲームで、私は「え」で、すぐに「そ、な」を見つけることができ、最後の一文字がなかなか集らなかったけど、わりと早めに見つけることができました。

ジャンボリーを通じて、私は一回り成長できたと思います。人種が違って、言葉が通じなくても、コミュニケーションができること分かったし、たとえ初対面でも、ジャンボリーの力で、いくらでも仲良くなれました。

「珠洲が私たちをそうさせるんだ」とベンチャーの人が言っていました。私もそうだと思います。道行く人とハイタッチしたり、フリーハグの札を持っている人とハグしたり、東京のど真ん中ではできないようなことも珠洲の力、ジャンボリーがそうさせるのだと思いました。

2022年の日本ジャンボリーは、どんな風になるか楽しみです。私もベンチャーで参加できたらいいなと思います。



杉並11団 BS隊 平井 飛向

今回のキャンプで料理を作る時、動いていない人がいると、時間に間に合わなくなってしまいうので、時間を守ることが大切だと分かりました。また、今回のキャンプでは家電のありがたみや、いつもの生活の違いを感じました。

ジャンボリーで一番嬉しかったことは、ジャンボリーゲームで日本2位を取れたことです。あともう少し頑張れば、1位を取れたかもしれないので、次回のジャンボリーに向けて練習したいです。

ジャンボリーで印象に残ったことは大集会です。チームオタのダンスや、バブリーダンスなど、楽しめる要素があって盛り上がりました。最後の二人組の歌が良かったです。

今回のジャンボリーでは、忘れ物を一つしてしまったので、次回はちゃんと荷物を確認し、忘れ物のないようにしたいです。



杉並11団 BS隊 長谷川涼々

<楽しかったこと>

- ・サイトでゆっくりした
- ・開会式、閉会式、ジャンボリー大集会
- ・バス移動
- ・丸太登りレース、グランドゴルフ などなど。

<大変だったこと>

- ・ご飯を食べること（量が多かった）
- ・Aテントで寝ること（虫が多かった）
- ・夜のプログラム後の食事の片付け
- ・暗い中での片付け
- ・設営、撤営

<残念だったこと>

- ・海水浴ができなかった。
- ・タヌキのチーフリングをなくした。

<不便だったこと>

- ・シャワーが混んでいたし、やりにくかった。
- ・サイトからいろいろな場所に行くのが遠い。

<反省とその他の工夫の仕方>

- ・ご飯の分量の工夫（量が多かったので食べきれない）
- ・食べきれる量に減らす
- ・夜、虫がテントにいて叫んでしまったが、これからは怖がらず、自分でやる。
- ・テントの入り口をしっかりとめる。



杉並11団 BS隊 逢坂 真依

<楽しかったこと>

・バス移動 ・丸太登りレース ・グランドゴルフ ・交流会 ・友情ゲーム ・開会式、大集会、閉会式など

<不思議なこと>

・海に勝手に入れない！ ・1日目か2日目の朝、テント本体のペグがほぼ全部抜けていた。
・みんな荷物がかなり小さい気がする。 ・サイトがとてもデコボコだった。 ・コンパスで遅かったのに、2位だということ。（7人班が少ないかもしれない？）

<大変だったこと>

・設営、撤営 ・毎日のごはん作り ・テントからクモやコオロギを追い出すこと ・暑い中の活動！ ・トイレ、シャワーへの道のり ・立ちかまどを直すこと

<反省点>

・立ちかまどが不安定だったこと ・行動が少し遅めだったこと ・1日目の夜に少しうるさくしてしまったこと
・水分をあまりとらなかったこと ・爪を切っておかなかったこと

<感想>

今回のキャンプはとても長くて、テントの正しいたたみ方などを初めて知りました。最初は毎回大変だったごはん作りがだんだん慣れて、早く作れました。

いつものキャンプは2泊ぐらいで、たくさんのはしらないけど、今回はたくさんをすることしたので、次からのキャンプに活かしたいです。いろいろな人と会話ができて、楽しかったです。



杉並11団 BS隊 出原 もも

「イエーイ！」と叫びながら手を出していれば、誰でもハイタッチを返してくれる。まったく知らないスカウトでも、その時から友達みたいで、すごく楽しくなる。いつも「スカウトはみんな友だち」と言われても、あまり感じなかったけど、やっこのとき分かった気がした。

私は人とコミュニケーションをとるのが苦手で、最初は自分から知らない人に声をかけるなんてとても無理だった。けれども、みんなスカウトという共通もあったせいか、だんだん話せるようになった。歩いている人とすれ違ったら挨拶をする。トイレでなら、人が出る時にも誰かと話す。「挨拶って楽しい〜！」と、本当に心の底からそう思った。

ジャンボリーはとにかくすべてが新鮮で、すごく疲れました。シャワーはすごく冷たいし、私たちのサイトはなぜか一番奥にあるし、トイレまでの道が長いし、とにかくたくさん歩くと、文句を言い始めたら山のように出てきます。

初めは本当に早く帰りたいでしたが、いろいろなことに気付けたし、友達と大自然の中で7日間過ごすのは最高でした。最後の日はもう少し良かったと思っている自分もいました。新しい自分と出会えたことに感謝です！



杉並11団 BS隊 米田 真大

僕がジャンボリーで一番良かったと思ったのは、ジャンボリーゲーム日本一プログラムのコンパスの7人班部門で、日本中の2位になったことです。第1隊には3位になった班があり、第1隊だけ2位と3位を取ることができました。

そして楽しかった事が3つあります。

1つめは開会式と閉会式、そして大集会でライブを見たことです。みんなすごく盛り上がって楽しかったです。

2つめは、みんなと交流会をしたり、ワッペンやチーフリングを交換したことです。

3つめは、ショップで買い物をしたことで、列に並びますが限定品が買えたので良かったです。残念だったのが欲しかったイカチーフリングとタコチーフリングが買えなかったことです。

最後に僕がこのキャンプで班でできなかったことや、改善するところは、点検に遅れないように、朝ごはんを早めに作ることです。このキャンプでは何度も点検に遅れたので、次のキャンプはもっと早くできるようにしたいと思います。そして夜は自分のものをちゃんと片付けていないのに寝ている人がいたので、直してもらいたいです。



杉並11団 BS隊 梅原 来羽

3日の夜に杉並公会堂まで歩いて行くのに、荷物が重たかったのですが、集合してバスで石川県に向かいました。

4日の朝に石川県につきました。テントを立てるのに時間がかかりました。

5日は開会式を行いました。開会式は長かったので、途中で寝てしまいました。

6日はジャンボリーゲーム日本一のコンパス競技をやりました。コンパスを使うのが難しかったけど、全問正解しました。オオカミ班は全国2位になれたので嬉しかったです。

6日の夜は友情ゲームをしました。香港、長崎、大阪、滋賀のスカウトと交流をしました。

9日は開会式を行いました。楽しかったのはゴルフドッチで、ジャンボリーアワードで表彰され嬉しかったです。一番美味しかった夜ご飯は、ハムステーキです。

キャンプサイトがとても遠かったので、プログラムに行くのも、トイレやシャワーに行くのも大変でした。大変なこともありましたが、楽しいこともたくさんあったのでよかったです。



杉並11団 BS隊 奥村 政勇

僕がジャンボリーで印象に残ったことをまとめたレポートです。

一つ目はプログラムです。ジャンボリーには多くのプログラムがあります。特に思い出があるのは、マーキュリーの海岸でのプログラムで、波が荒れて延期されたプログラムがあったことと、海水浴が予約制で、枠が少ないことになりました。このため、海岸で行うプログラムのサンドアートに参加しました。

二つ目は通常の生活です。僕が生活していたのは、一番広いアドベンチャー地区だったので、水を汲みに行くのも、汚水を捨てに行くのも一苦労で、トイレに行って帰ってくるのも15分かかるので大変でした。

最もつらく恐れていたことは、太陽の日差しと気温、それで起こる熱中症でした。最終日にも倒れた人もいて、日陰にいないと、誰でも倒れてしまいそうな状況でした。

一週間キャンプした場所だったので、撤営が終わった時には、嬉しい気持ちと寂しい気持ちの両方を感じました。

僕はこのジャンボリーを通じて、自分たちがふだん当たり前のようになっている生活をありがたく思いました。

この7日間という短い時間の中、とても多くの能力をみがき、自分のものにできた気がします。そして、今大会で得た経験を次のジャンボリーで形として発揮し、さらに技能を高めていきたいと思っています。



杉並11団 BS隊 高野 真帆

今回、ジャンボリーに初めて参加しました。石川県に行くことも初めてでした。石川県珠洲市は夜は星がきれいで、空気がおいしいなど、東京と違うすごさを実感することができました。

①コンパスナビゲーション

私たちフクロウ班は、アースで「ジャンボリーゲーム日本一コンパス」を行いました。ゲームが始まる前に班の中で練習したり、教え合ったりして、準備万端で挑みました。ゲーム中もみんなで助け合いましたが、結果は入選できませんでした。それは自分のスピードと技術が足りなかったからだ、と思いました。これからもコンパスに限らず、練習を重ねて努力していきたいです。

②コミュニケーション

私は改めて挨拶のすがすがしさを感じました。誰とでもすれ違ったり、会ったりしたら、ハイタッチを元気良くしたり、楽しく挨拶をしました。初めはあまり声が出なかったけど、自然に出すことができました。今後も相手に負けないような声で、明るく元気に挨拶を続けていきたいです。

夜は遅くて、朝は早いのが続き、寝不足になりがちで大変でした。しかし、その状況の中、班で声かけすることで協力性が高まったと思います。ボーイスカウトのモットー「そなえよつねに」を心がけ、いつどこで何があっても安心できるように技術を見つけておきたいです。



第2隊 (中野8団、杉並9団、杉並12団、杉並13団)

中野8団

中野8団 BS隊 北川 龍

今回の日本ジャンボリーは、私の人生初めてのジャンボリーで、多大なる刺激を受けた。その中でも特に次の二つのことが印象に残っている。

一つ目がプラザ近くでしたワッペンとチーフ交換である。プラザの前では自分のコレクションに自信のあるスカウトたちによって、ワッペンの交換が行われていた。ある者は声高く「Could you exchange your wappen with mine?」と叫び、ある者はうまく交換できないのか、ポーと天を眺めていたりしていた。私はその場所で、大阪、兵庫、千葉などのジャンボリー参加隊とワッペンを交換したり、フィリピンやイングランドのワッペンを手に入れたりなど、交換を通じた地域、国際交流が出来た。このことは今となっても忘れがたい思い出である。

二つ目は、炎天下での活動である。今回のジャンボリーでは、2日目に最高気温39度を記録するなど、常に暑さとの戦いであった。派遣隊の中でも小学六年生など、体力が不十分な者を中心に、熱中症になるものが多かった。実際私も軽度の脱水症と言われ、本部まで連れて行かされる始末だった。

ふだんのキャンプは木陰の多い場所のため、今回のような経験をしたのは初めてである。もし次にこのようなことが自分の団であれば、今回の経験を活かすことが出来るだろうと感じた。

日本ジャンボリーは7日間と長い期間にわたり開催されていたものの、毎日があまりにも楽しかったため、あっという間に過ぎていった。中学生最後の夏ということもあり、今回の思い出は大人になっても色あせず、記憶され続けるだろう。この経験をスカウト生活だけでなく、今後の人生に活かすことができればと思う。



中野8団 BS隊 村松 泰地

このジャンボリーで楽しかった一つ目はジャンボリーのプログラムで、海や山のプログラムがあり、様々な環境でのプログラムが出来たので、とても良い経験になりました。

特に自分が印象に残っているのは、竹を結び班旗を立てて高さを競うゲームでした。このゲームでは制限時間内にどのような結びで、どう立てるかなど、いろいろと考えなければならぬので難しかったです。その結果、二回負けたので、ロープワークを見直したいと思います。

二つ目は、他団との交流です。交流ではプログラムの合間に、品物の交換やキャンプファイアなどをしました。特に品物の交換が楽しかったです。

自分はBSAなどのキャンプに参加しているため、今まで溜まったワッペンなどをご当地のワッペンと交換することができ、たくさんのワッペンが集まったので嬉しかったです。これからもジャンボリーなどに参加し、ワッペンなども交換したいと思います。

ジャンボリーでは、様々な良い経験をすることが出来たので、この経験をこれからの自団のキャンプに活かしたいと思います。



中野8団 BS隊 土岐 孝太郎

今回のジャンボリーは、出発前に自分自身、班活動と共に楽しむことを目標に立てました。一方で初めての一週間という長期キャンプで、不安な気持ちもありました。初日の設営では不安な気持ちが大きく、楽しいという感じはありませんでしたが、開会式でのコンサートからは、不安な気持ちが吹き飛びました。ジャンボリーの盛り上がり伝わって、ジャンボリーとはこういうものかが少し分かった気がしました。

翌日からのプログラムでは、今まで班をまとめていたベンチャースカウトが抜けましたが、プログラムを楽しむことが出来ました。

また夜の交流会では他の地域のスカウトとゲームをしたり、ワッペンを交換したり、話をしたりしました。外国人スカウトとも交流ができ、良い経験をすることが出来ました。

ところが3日目の朝、リーダーからベンチャーを班長・次長から班員にするといわれ、次長をまかされました。朝飯を作る時には元班長から「仕事をください」といわれ、班長・次長の大変さを知ることが出来ました。



さらに午前のプログラムが終わり、ベンチャーを班員から外すことをリーダーからいわれました。午後からの撤営では、朝よりさらに班長・次長の大変さを感じました。

バスに乗ったときには、ジャンボリーが終わったという達成感と、もう終わってしまったのかという気持ちが出てきました。このジャンボリーでは、ほとんどが初めての事だらけで、とまどうこともありましたが、プログラム、交流を通じてジャンボリーを楽しむことが出来ました。

中野8団 BS隊 堀内 幹大

今回ジャンボリーに来て、自分で決めたテーマは「全力で楽しむ」ことです。最初の集会で、「各自で今回のジャンボリーで達成する課題を決めてください」といわれましたが、決まりませんでした。1日目の夜、設営で疲れた時、全然楽しめていないことに気づき、折角ジャンボリーで石川県まで来たのだから、残り6日間、全力でジャンボリーを楽しもうと思いました。

そのスタートは同じ団の龍君でした。龍と二人で歩いていたとき、歩いてきた人がいきなり龍に「イエーイ！」といいながらハイタッチしてきたので、自分たちも楽しもうと思い、同様にやってみたところ、知らない人も案外気軽に応じてくれて楽しかったです。

ここで、テンションのスイッチが入り、龍や班員とライブで盛り上がりました。

次の日からは「ジャンボリーだから楽しもう」と思い、できる限りプログラムに参加して、他の隊のスカウトとワッペン交換などで交流し、ジャンボリーのテンションでハイタッチして、全力でジャンボリーを楽しみました。



中野8団 BS隊 鈴木 元太郎

ジャンボリー2日目、初めてショップに行った時、1個のワッペンで3つのワッペンと交換でき、その3つのワッペン一つ一つと奈良県、岡山県、世界ジャンボリーのネッカチーフと交換でき、とても嬉しかった。

そのワッペンはとても気に入っていたけれど、4年に一度のジャンボリーでネッカチーフと交換することで、地域交流の機会となり、嬉しかったです。

これからはこの経験を活かして、既存のワッペンを活用しつつ、自分のまだ知らないワッペンと交換したいと思う。



中野8団 BS隊 猿渡 友結

私がジャンボリーで楽しかったのは、3日目のプログラムです。なぜならゲストが大物で、宇宙飛行士の野口聡一さんと、皇太子殿下が出てきて、びっくりしました。初めて皇太子殿下を生で見ました。宇宙飛行士の野口さんは次の年に宇宙旅行に行くのです。私は野口さんが宇宙へ行く日が楽しみです。宇宙はどういうところなのか、どういう景色が見えるのか、知りたいです。

他に楽しかったことは信号塔づくりです。こんな大きな信号塔を作る隊は他にいないと思います。

閉会式で石川県のほくりくアイドル部が出てきてびっくりしました。

まるでライブに来ているような感じがしました。そして閉会式のラストに、大きな花火が上がって、とても綺麗でした。もう1度見てみたいです。

このジャンボリーはとても大変でしたが、丸太と丸太をつなげるロープの結び方など、いろいろ学び、楽しむことが出来て、楽しかったです。またこうしたキャンプがあれば挑戦しようと思います。



杉並9団

杉並9団 VS隊 菊池 直人

ジャンボリーに参加して、班員との協力の重要性を感じました。ジャンボリーでは、信号塔を作成する計画を前から考えており、主として中学3年、高校1年、2年を中心に事前訓練として模型を作成したり、綿密なコミュニケーションを取って、無事に信号塔を立てることが出来ました。

さらに大会期間中は班員と協力して生活面、プログラムに協力できて楽しく生活ができ、良い思い出ができました。





次に班長としてのあり方について思うことがありました。今回高校2年の最高学年として多くの後輩がいる中で、班長としてどのように行動し、手本となるかを考えさせられました。また小学生に教えるのに、どのような説明で分かりやすく伝えるか、日頃のベンチャー隊の活動では体験できない大切なことを改めて実感でき、有意義な時間を過ごせました。

また今回は各班の班長と連携を取り、ストレスのないようにするために相談して、楽しいジャンボリーのために考え、行動する意味の大切さを知りました。

プログラム中はベンチャーのグループで行動でき、本気で遊び、楽しみ、青春をしてきました。日本一にはなれませんでした。日本中のスカウトと競えて楽しかったです。

最後にこのジャンボリーで学べたこと、知ったこと、分かったことなど、良い経験を自分の成長に繋げるとともに、自隊に持ち帰り、より良い隊にしていきたいと思います。

杉並9団 VS隊 村上 純平

今回のジャンボリーでは、世界ジャンボリーでは得ることの出来なかった経験をする事ができた。その経験とは「班員たちの関係」である。今回参加した班は、小学生、中学生、高校生と幅広い人々で構成された。ジャンボリー前に2回集会があったが、直前の班集会はとても協力的だと感じ、これならジャンボリーでの班活動も上手くいくと思っていた。しかし、実際に活動してみると、なかなかうまくいかなかった。なぜかというところ協力的であっても自分中心だったり、年下に押し付けたりと、積極的に活動せず、結果的に食事時間が充分に取れなかったり、集会に間に合わなかったりした。

また班員間の言い争いで、班活動の時間が遅くなったり、一時的に仲が悪くなり、活動に支障をきたしてしまった。

以上の問題から重要なことは、協力的であるだけでなく、班員同士がお互いを知り、積極的に行動しようという意思を持たなければ、本当の協力的な班はできないということだ。

しかしこれはあくまで理想であり、実現するのは難しく不可能だろう。それに初めからできるよりも、問題が多少あり、ぶつかりあった方が、よりお互いを知り、協力的になれると思った。



杉並9団 VS隊 杉本 慈

今回ジャンボリーで、隊長から目標を定めて取り組むよう話があり、僕は「出来る限りスカウトと関わる」ことを目標に取り組んだ。これはふだんの団の活動ではできないことであり、ジャンボリーに参加しようと思った理由の一つでもある。

様々なプログラム中や、移動中、交流会で会ったスカウトとは、実際にお互いのスカウティングについて話したりして仲良くなり、世界ジャンボリーでの再会を約束したり、今後も情報交換することを約束できた。これらのことを通じて、改めてスカウティングは日本中、世界中の活動であることを実感した。来年の世界ジャンボリーではこの経験を活かして、より多くのスカウトと話したり、交流したいと思う。

そして、今回のジャンボリーは信号塔を作る目標があった。最初から話に関わっていたものの、忙しくて事前準備に参加することが出来なかったが、当日にプロジェクトがうまく進むよう協力できたことは良い経験になった。第2隊全員が一体となって信号塔を作った場面は感動し、多くの人に注目してもらえたことは素直に嬉しかった。

全体を通してリーダーから注意されたことや、班長として不十分と感じることもあったが、それも含めて自分の成長につながるきっかけとなったと思う。得たものをすべて杉並の団に持ち帰り、今度はボーイ隊の後輩に少しでも伝えていきたいと思う。



杉並9団 VS隊 相澤 岳琉

ジャンボリーでは小平隊長より、「自分の目標を作って欲しい」との話があり、目標を「ジャンボリーに参加できるチャンスを全力で楽しむ」にして、決めた目標を達成するため、すべてのプログラムと作業の手を抜かずに行動するように心がけていました。

それ以外では信号塔作成プロジェクトも、楽しく作るように心がけました。また、ベンチャーのみで参加していたプログラムでは、他の団に負けないように、海水浴やビーチフラッグ、棒登りなど、全力で楽しむようにしていました。



その中でも思い出に残っているのは、ベンチャー全員で協力した棒登りで、全員と協力し、役割分担もして、他の団に勝つことができたことです。

大集会や閉会式のイベントでは、とにかく楽しむという気持ちで参加していました。閉会式は、アイドルグループが来てくれた時に、ベンチャー全員で盛り上げていました。

最後に自分が楽しむ以上に、心がけていたことが一つだけあります。それはボーイ隊の上の世代の子には、今自分が班を引っ張っていくべき人であること、班員が自分のことを頼りにしていることに気づいてもらうこと、下の世代の子には、どうしたらキャンプを楽しむ事ができるか、教えてあげることが気にかけて行動していました。

このことに少しでも気がついてきたスカウトがいたら、うれしいと思います。

杉並9団 BS隊 坂本 侑雅

今回のジャンボリーは、日本中のスカウトが集まって交流できるので、とても楽しみにしていた。

ジャンボリーで一番印象に残ったのは信号塔で、気づいたことはロープワークを強化することで。角しばり、筋交いしばり、はさみしばりを触っても動かないようにすることで、今までのロープワークが弱いことに気づき、ジャンボリーでは貴重な体験だけでなく、自分の技術をさらに上げることができました。

プログラムで一番印象に残ったのは、遠いところでも話せるトランシーバー体験です。これを使えば大きな声を出さず、遠いところでも呼び出せるので、とても良いと思います。

ジャンボリーではワッペンの交換や、外国人との交流がとてもいい経験になったと思います。僕はあまり英語が話せませんが、自分から話しかけ、少し話せてとても良かったです。

このジャンボリーを経験して気づいたことは、スカウトの交流はとても大切だということです。



杉並9団 BS隊 小森 瑞樹

ジャンボリーで体験した出来事で、心に残ったことがいくつかあります。

一つ目はジャンボリー3日目の夜、ジャンボリー大集会で登場したアーティスト吉田山田の歌でした。とても印象に残るような感じで、楽しめました。

二つ目は同じ3日目に登場した宇宙飛行士野口聡一さんのとても心に残るスピーチで、ジャンボリーの生活に大きく参考になるスピーチだったと思いました。

他にも他隊のサイトには、印象的なものが数多くありました。例えば、東京山手地区の忠犬ハチ公像のレプリカです。とてもリアルで、本物がそのまま石川県珠洲市に移動してきたようでした。

今回のジャンボリーで大変だったのは、2日目の大雨の対処でした。この経験を活かして、今後もボーイスカウト活動に邁進していきたいです。



杉並9団 BS隊 峯村 恭平

今回のジャンボリーで体験した出来事の中で、一番心に残った体験は、香港の団の皆さんとの交流会です。

自分の班に来てくれた香港のスカウトはトーマス君で、彼は日本のサブカルチャーに詳しく、日本のことが好きな青年でした。自分は父の勧めで11才の頃から英会話教室に通っていて、外国人の先生にレクチャーしていただいたのですが、実際に外国人の方と教室以外でお話をする機会がなく、いつか外国人の方とお話をしたいと思っていました。その夢がようやくかなって、彼と英語で会話する有意義な時間を過ごすことができ、外国の人々に日本の文化が人気を得ていることを再認識しました。

しかし、今回のジャンボリーでは楽しいことばかりではなく、辛いこともありました。一番の問題はトイレのにおいとシャワーの混み具合です。これはすべての人に当てはまることと思うのですが、やはり会場の仮設トイレは通常のトイレと比べると臭いが強く、故障も多かったのも、自分としてはとても厳しい環境でした。

シャワーの方は、その日に浴びるのを諦めれば済む話ですが、自分はアトピー持ちなので、毎日必ずシャワーを浴びなければならず、とても苦勞し、きついキャンプになりました。

この7日間、自分をいろいろサポートしてくださった津村隊長や、気を使ってくれた望月リーダーなど、本当にありがとうございました。

杉並9団 BS隊 下山 凜太郎

今回のジャンボリーでは、普段の活動でできない貴重な体験ができました。

プログラムではモールス信号や班旗立てなどで、技術を鍛えることができました。

生活ではタートル班で班員と協力できましたが、意見が対立することもありました。でも日がたつにつれて、みんなの仲が深まり、楽しく生活することができました。他の団との交流では、ワッペンや帽子を交換したり、ゲームをしたりして、楽しむことができました。

プログラムのモールス信号では、メッセージを受け取り、それを解読して爆弾の解除もしました。班旗立てではギリギリまで頑張りましたが、立てることができませんでした。

タートル班では、途中からベンチャー隊の班長・次長が抜けて、自分が次長になり、みんなに指示を出しましたが、これにより、普段の活動での指示の質が高められると思いました。

今回のジャンボリーを通して、みんなと協力する大切さを学びました。みんなと協力することで作業効率が高めることで、もっと有意義な活動をし、チームワークを高め、楽しい活動をしていきたい。またこのことを将来にも活かしていきたいと思います。



杉並9団 BS隊 高見 玲英

今回のジャンボリーで感動したことが、いくつもあります。

まずは他の県やほかの国の人との交流です。知らない人でも通りすがりに挨拶をし、ワッペンを交換したり、会話をしたりするフレンドリーな人達の動作に感動しました。

他にも開会式、大集会、閉会式など、全体の集まりの大きさに驚きました。日常的な生活の中では、料理やテントの作業などで、班での協力を目にしました。時には厳しく、時には共に笑ってくれた先輩方にとっても感謝しています。

また、信号塔の作成が印象深いです。土台作りは中3以上があたり、その組み立てに中1は僕だけでしたが参加しました。基本的に抑えつけるだけで、自分が手伝うと失敗してしまうこともありました。それも来年の世界ジャンボリーや、これからの活動に活かせるものだと思います。

ジャンボリーでは悔しかったこと、悲しかった事もたくさんありましたが、それを超える喜び、感動がありました。来年、1級章をとれることができれば、アメリカでの世界ジャンボリーに行くことができます。その場合、言葉も通じないし、技術も通用しない可能性があります。

このため、仲間の足を引っ張ることのないよう、ジャンボリーの多くの経験、思い出を糧に、来年までに練習を積んで臨めるようにしたいと思います。



杉並9団 BS隊 沼田 竜騎

ジャンボリーは、ボーイ隊で最年少の小学6年生の参加となりましたが、一度もダウンせずに、ジャンボリーを楽しむことができました。

自分がジャンボリーで掲げた目標は「時間を守る」ことでした。昨年までのカブ隊では、少し時間に余裕がありましたが、ボーイ隊では他の人に迷惑をなるべく減らすことまで考え、行動しなければなりません。このため、その一歩として、「5分前行動」を心がけるようにしました。先に結果を求めてしまうと、達成はほとんどできませんでした。主な理由は個人装備が多かったことです。

またボーイ隊のキャンプは、今回のジャンボリーを合わせてもまだ2回しか行っていません。

そのせいと言うのは単なる言い訳ですが、もう少ししっかり準備をした方が良かったと思いますし、次からのキャンプの教訓にしたいと思います。

この6泊のキャンプは、自分でも初めての長さのキャンプでした。自分は新米スカウトとしてジャンボリーに行き、さまざまのことを学びました。たくさん注意されたり、叱られましたが、最初のうちはきつかったものの、次第に楽しむことができるようになりました。

自分はこのジャンボリーの経験を、これからも続けて行く原動力にしていきたいです。



杉並12団

杉並12団 BS隊 島村 優史郎

私はこのジャンボリーで、多くの経験をしました。違う団の人と初めて班を組んで、一週間キャンプすることは大変でしたが、交流を深めることができました。そんな仲間と過ごした一週間は思い出深く、なかなか経験できない貴重な時間になったと思います。

私はこのキャンプを通して、一つの目標を立てていました。それは「自分から積極的に行動する」ということです。なぜなら私は人に言われないと動くことができないタイプなので、この目標を立てることに決めました。ですが、私の目標を達成することができませんでした。しかし、少し成長したと感じました。自分から班長や次長に何をすればいいか聞いたり、言われたりしなくても、自分から行動することが少々ありました。

そんな少しでも成長する機会を準備してくれたリーダーやスタッフの方々には、心から感謝しています。ジャンボリーは私にたくさんの思い出、喜び、感動、楽しさを与えてくれて、最高でした。

私はジャンボリーはこれで終わりではなく、これから先にも活かしていけるように、努力していきたいと思います。4年後の東京でのジャンボリーには、今度こそ私が皆を引っ張っている存在になって帰ってきたいと思います。



杉並12団 BS隊 石澤 彰人

僕はジャンボリーに参加するにあたり、2つの目標を立てました。

1つ目は仲良くなることです。なぜかという、ジャンボリーにはいろいろな国や県からたくさんのスカウトが集まる4年に1度の大きな大会です。そのためたくさんのスカウトと交流できる大きいチャンスだからです。

2つ目は積極的に話しかけることです。1つ目の目標を達成するためにも、積極的に話しかけることが必要だと思います。ジャンボリー中には様々な国や県の人との交流のプログラムがあります。

プログラムでは山口、岡山、大阪、愛知、滋賀と交流しました。また、他のプログラム中や移動中に、外国のスカウトたちとワッペンやネッカチーフ、ネッチリングなどを交換しました。

このように、今回の日本ジャンボリーで僕は様々なスカウトのみんなと一緒に、たくさんの交流をすることができました。僕は来年世界ジャンボリーに行く予定です。今回の長いキャンプでの経験を活かして、来年や次の日本ジャンボリーにつなげていきたいと思います。



杉並12団 BS隊 小平 桂彰

私が最初に立てた目標は二つあります。まず仲間を増やすこと、そしてスカウトとしてのレベルを上げる事です。仲間を増やすことで一番印象に残っているのは、ハイタッチです。初めて他の隊の人とハイタッチした時、隊や団を超えたコミュニケーションがとれたことに感動し、世界各国にボーイスカウトの仲間がいることを実感しました。

そして6日目に信号塔をアリーナ近くに移動することになり、信号塔の上から、閉会式に参加するスカウトのお迎えとお見送りをした時には、「行ってらっしゃい」、「お帰りなさい」の声に、みんなが元気な声で返してくれました。

さらには夕食の「金沢ゴーゴーカレー」で盛り上がるなど、ボーイスカウトとしての仲間意識が固まり、仲間を増やすことができました。

スカウトの技術に関しても、例えば「休め」や「握手」などは、今まで習った通りしていましたが、「三指」を意識したのは初めてでしたし、いろいろ向上できました。

またこれまでは炊けた米をむらす事をしっかりやっていたので、参考になりました。他団のスカウトと知恵を出し合うことで、様々な技術をお互いに共有できました。

このジャンボリーを通して、大阪や東京など、いろいろな仲間を増やし、技術を上げたことによって学んだことは、世界のスカウトが仲間であることです。このことを胸に、これからのスカウト活動に活かしていきたいです。そして来年のアメリカの世界ジャンボリーや、次の東京ジャンボリーにも参加したいです。

「スカウトは一生」という言葉の通り、一生続けていきたいと思っています。



杉並13団

杉並13団 VS隊 澁谷 光太郎

僕はこのジャンボリーで、4つのことを目標にしてきた。

それは「自分自身の技術を上げること、いろいろな人と交流すること、信号塔を完成させること、次長として班をサポートしてまとめる」ことだ。

7日の日程は、ロープワーク技術が良く、信号塔作りは達成できた。5日目の信号塔によるみんなの見送り、出迎えなどで、たくさんの人と挨拶でき、とても楽しかった。

2つ目の目標は、交流会などでワッペン交換や会話などを通して達成できたと思う。

3つ目の信号塔の目標は、3日目の夕方に達成することができた。それまで酷暑の中、何度も角縛りをやり直し、きつく縛るのが大変だった。

それでもみんなで団結し、完成させた。完成した時の達成感はとても大きな物だった。僕はこのように大きなパイオニアリングは初めてで、とても良い経験になった。ここでの経験を世界ジャンボリーでも活かしていこうと思う。

最後の目標は、達成が一番難しかった。料理やサイトの点検、集合などに指示が適確でなかったため、たびたび遅れたり、料理が美味しく作れなかったりした。時には班員の反感を買ってしまったこともあり、班長と共にどうすべきか悩み、夜遅くまで話し合った。しかし最後は行動班の班長、次長がまとめてくれたので、とても嬉しかった。

ただ全体を通して、まだ達成できないこともあったので、今後改善していきたい。僕は来年世界ジャンボリーに行くので、ここで得た経験を活かしていきたい。



杉並13団 VS隊 大澤 健

僕にとってジャンボリーとは、ただ長い期間キャンプをするイベントだと思っていました。しかし、会場に到着して気づきました。特設ステージを見た瞬間、一気に印象が変わりました。他のスカウトたちのテンションが高く、すれ違いざまにハイタッチやハグを要求されて嬉しかったです。

日に日にストレスが溜まり、体に疲れが出始めましたが、適度な休みを取り、反省しつつ6日間を過ごしました。他の団と活動をすることで、自身の実力、精神の向上が図られます。自分の失敗を活かして、より良い取り組みをすることができました。信号塔が完成したのは良かったですが、もっと進んで参加すれば良かったなと思いました。

ベンチャースカウトとして恥ずかしいこともあり、白い目で見られたことがありましたが、そのことをきっかけに意識を変えることができました。今の自分は変わったと思っています。

来年は世界スカウトジャンボリーに行きます。そのためにいろいろ大変なことがあるかもしれないけれど、このジャンボリーをバネに、今後のスカウト活動も頑張り、高校生活と両立させ、楽しく過ごしていきたいと思います。

残りの夏休み期間、宿題が終わっていませんが、頑張ってお知らせします。



杉並13団 VS隊 酒井 伸悦

ジャンボリーではさまざまな事を学びました。

まず最初に、僕はバスの中で寝なかったため、次の日の活動はうまく動くことができず、2日目は6時間くらい寝たので、結構動けて活動できました。

3日目のピローファイトでは、一戦しかできなかったけど、勝ったので良かったです。棒立てはメンバーの走り込みが早く、棒を立てるスピードも凄いと思いました。周りで一緒に挑戦しているボーイ隊のスカウトは年も若く、隊別の採点ですが、勝負はもちろん僕たちの圧勝でした。暑い日によく動いたので、その日はよく寝ました。

4日目はあまり寝れなかったけど、よく活動できました。この日に僕は昼に携帯を使って注意されました。「ベンチャーだからいいか…」と考えたのが悪かったと、書いている今でも反省しています。

5日目は一番大変な日で、6日目には疲れが溜まって、毎日の料理も面倒で、帰りたい気持ちが芽生えました。そして最終日、やっと帰れると思い、嬉しい気持ちとともに、寂しい気持ちになりました。

この一週間は、すごく勉強になり、笑いもありました。最終日に「フリーハグ」ができたこと、ワッペン交換が盛り上がったことも嬉しかったです。撤営も大変でしたが、最後まで真剣に取り組み、皆で協力して活動できました。

総合的に見ると、良くないこともありましたが、及第点です。アリーナでアイドルに盛り上がり、具合が悪くなっ



たのは反省しています。皇太子殿下、吉田山田が来た時はすごく興奮しました。

でも今までのボーイスカウトの活動の中では、一番辛く、楽しく、充実した7日間になりました。せっかく早起きの習慣が付いたので、このまま早起き生活を続けたいと思います。

杉並13団 BS隊 飯嶋 美帆

ジャンボリーでは、楽しいことだけでなく、辛いことも、たくさんの経験をしました。

それはスカウト全員と、一つの事に向かって協力出来たことです。特に信号塔の作成は、時間が限られていて、年少のスカウトは飾り付けを準備し、年長のスカウトは屋根の作成など行い、効率よく活動できたと思います。

ですが、それはしっかりと事前準備があったからだと思います。中学3年生以上のスカウトは事前集会を行い、ロープワークをスキルアップし、作成の際はスキルのあるベンチャーが的確な指示して、私もロープワークをスキルアップすることができました。

プログラムでは班で協力することが多かったのですが、班員全員で団結することがなかなかできませんでした。日がたつにつれて班員は疲れ、ストレスが溜まってボーッとしたりして、なかなか協力することができませんでした。

また、ヴィーナスで活動する際は、班員2人が体調を崩したため、班員4人での活動になってしまいました。

今回のジャンボリーでは、タートル班から多くの体調不良者が出てしまい、休憩や水分補給などが足りなかったと思います。私は来年の世界ジャンボリーに参加し、上のスカウトとなるので、先輩のように的確な指示ができるよう、一年間活動していきたいと思います。



杉並13団 BS隊 阿部 裕充

僕にとって初めてのジャンボリーでは、班員に迷惑をかけないように、注意して班行動を頑張ろうと思いました。

ジャンボリーが終わって、目標は完全ではないけれど、達成できたと思いますが、忘れ物をして迷惑をかけてしまったので、次からは班のことも考えながら、自分のこともしっかりやっていきたいと思いました。

閉会式があった日と、撤営の日、急きょ班長を任せられた時は驚きました。僕は4つの班の中で、唯一中2だったので、僕に務まるのか心配でした。

実際にやってみて、班員がひまにならないように指示することや、班員を一つにまとめるのは大変だったので、今まで班長だったベンチャーの人の大変さが分かったし、これからは班長に今まで以上に手伝おうと思いました。

今回のジャンボリーはただ長いキャンプではなく、様々な人との交流がとても楽しかったです。次のジャンボリーも行って、もっといろいろな人と交流したいと思いました。



杉並13団 BS隊 石原 昌樹

僕はジャンボリーと聞いて、今まで一週間の長期間のキャンプは経験したことがなかったので、少し不安でした。

他の班員の人たちとなじむ事ができるか、みんなの足を引っ張ることはないか、班長の指令をしっかり聞けるか、そして何よりも無事にキャンプを終えることができるか、とても心配でした。

今回のジャンボリーには、たくさんの出来事がありました。もちろん悲しいことや悔しいこともありましたが、それ以上に楽しいことも数多くありました。各県との交流会や、気持ちよかった海水浴、そして最後にとても盛り上がったライブなどが心に残りました。

そして、今大会のテーマにもあるように、この豊かな大自然に囲まれた能登からもらった力を未来へ伝えていきたいと思います。



杉並13団 BS隊 及川 晴香

私はジャンボリーで、たくさんのことを経験しました。1つ挙げられることは、いつもの団でないメンバーで班のメンバーが構成されていることです。私の隊は杉並9団、12団、中野8団、そして私たちの杉並13団で、いつもの団とは違うので、今まで知らなかったこと、技術面での自分の足りないところなどを知ることができました。

2つ目は普段はできない他の団、他県連との交流、また他の国のスカウトと交流ができました。ジャンボリーの間は住んでいる場所、人種、宗教に関係なく、交流することができます。これは本当に貴



重な体験で、ボーイスカウトをしていないとできないとことだと改めて感じました。

さらに石川県のジャンボリーならではの海水浴、開会式、閉会式、ジャンボリー大集会など、楽しいことがたくさんありました。そして次のジャンボリーが東京に決まり、さらに楽しみになりました。私はこのジャンボリーで新しいスカウトとの出会い、自然の体験、ジャンボリーならではの体験から、たくさんのことを学びました。来年の世界ジャンボリーに活かせる体験ができて良かったです。

杉並13団 BS隊 小林 璃音

今回のジャンボリーで経験したのは、「あきらめない」ということです。私はできないことをあきらめることがたまにあるのですが、今回は何事にもあきらめず頑張ることができました。

他には「プラス思考」に考えて楽しむことも経験しました。例えば、夜ご飯を作るのがとても面倒くさくて、グチばかりを話していたのですが、いやなことがあったら「楽しい」と言うといいよと教えてもらい、「楽しい」と言ったらなんだかおかしくて、みんなで笑って、とても楽しくなったという経験があり、プラス思考で楽しむという経験を大事にしたいと思いました。

辛いこともたくさん経験しました。ジャンボリーで一番辛かったのは、いろいろなところから離れたことです。プログラムの場所からも、トイレとシャワーからも遠くて大変でした。でもそのお蔭で、今までシャワーもトイレもすぐ近くにある家に住むことができ、幸せだったということに気付いたことも良かったと思いました。

今回のジャンボリーでは「あきらめない」ということと、「プラス思考」で楽しむということを学びました。さらにあたり前の生活に感謝することができました。来年の世界ジャンボリーでもこの経験を活かして、たくさん学んで経験したいと思います。今回のジャンボリー、楽しかったです。



杉並13団 BS隊 藤原 圭悟

私はジャンボリーに行く前は、7日間もキャンプをしたことがなかったので、とても心配でした。しかし、ジャンボリーではたくさんイベントがあるのを見たり、スポンサーサが付いているのを見に行きたくなりました。

1日目、大きな荷物を持って移動するのが大変でした。トイレがとても遠かったです。

2日目の開会式ではライブがありましたが、旗を使ったものが多かったです。

3日目にサターンエリアとアースエリアに行きました。どれもとても並んでいました。交換で東京の物を、ほぼすべて交換しました。

4日目、時間にあまり間に合いませんでした。プラザに行きました。宗教の集まりの途中でかなり眠くなりました。大集会では皇太子殿下がお見えになり吉田さんのライブがありました。風呂に入れませんでした。

5日目、海に行きました。海の先に新潟が見えました。アースエリアでは並びましたが、人があまりいなかったのでもやめました。そして大阪などとの交流で、帽子などが手に入りました

6日目、ヴィーナスエリアに行きました。撤営のあとは、ビニールシートの上で寝ました。

7日目は撤営を続けて、ゴミを拾ってバスに乗りました。

今回のジャンボリーでは、時間に間に合うよう行動すること、水を大切にすることが分かりました。



杉並13団 BS隊 山田 唯月

私は他の団の人達とキャンプをすることが少なかったため、他の団の人たちと生活する上で、人の役に立てる人材になることを課題にして、このジャンボリーに参加しました。

数々のプログラムと生活を仲間と共にすることで分かった事があります。

1つ目は会話を大切にすることです。個人が自立することは大切ですが、それ以前に班員の状況を全員が知っている必要があります。自分のことを周りが知っている必要があります、それを自分から発信することが大切なのだと考えるようになりました。

2つ目は考えて行動することです。リーダーの指示を忠実にこなすだけでなく、その指示は何を目的としているのか、何を見据えているのか、自分でも考えることが大切だと思いました。それによって、よりよい選択をすることができます。

私の班の班長は、リーダーの指示の中で優先順位を考え、少ない食事の時間を確実に守っていたので、最優先である集会の時間を守り通せました。

ジャンボリーでの生活によって分かったことは、行動に移して出来るようになる必要があるため、ジャンボリーで学んだことを活かして、普段の活動で課題を克服しようと思います。



第3隊 (杉並2団、杉並3団、杉並4団、杉並5団)

杉並2団

杉並2団 BS隊隊長 石井 誠

私にとって、17回日本ジャンボリー以来、20年ぶりのジャンボリー参加でした。

第3隊では主に食材準備と安全救護の担当で、行く前は不安がありました。

本番3ヶ月前の5月に杉並2・3・4・5団の合同隊集会でスカウトたちの顔を見た時は、大丈夫かな？と思う場面もありましたが、いざジャンボリーが始まるとたった一週間のうちに徐々に変わり、帰ってきた時には顔つきが一回りも二回りも成長したように感じました。

第3隊は一つの家族のようなものです。スカウト・指導者ともに団を超えて結束力があり、仲間意識も強く、ベンチャーたちがムードメーカーとなり、少しの空き時間でもサッカーをしたり、サイト内を駆け回ったり、ある時はお互いに助け合い、初日からとても良い雰囲気でした。

香港スカウトとの共同生活でしたが、すぐに打ち解けて和気あいあいに活動していました。

日中はとても陽射しが強く、サブキャンプの中でもテントサイトが一番端だったので、トイレや配給、プログラム参加等、何をするにも移動に時間がかかり、炎天下の活動のため、強制的休憩や飲水をし、テントサイトには常に塩砂糖水・麦茶・水と3種類は作っておき、熱中症対策にはいつも気を遣っていました。

スカウトたちや同じ指導者たちには、少しでも多くの「ジャンボリーの雰囲気」を肌で感じてほしい、それには些細な傷病者でもできるだけ抑えたかったです。

最後に関係者皆様の支援があったからこそ参加でき、有意義でかけがえのない貴重な経験をさせていただきました。ジャンボリーの経験を糧にして、次へ活かせるよう日々精進していければと思います。



杉並2団 VS隊 富澤 拓望

私はジャンボリーで、ジャンボリーゲーム日本一や、ジャンボリー大集会など、さまざまな事をしました。その中で最も楽しかったのは海水浴です。

ジャンボリーは楽しいだけでなく、暑さなど大変なこともありました。しかし、私は大変なことを含めて、様々なことを学び、成長することができました。7日間という長い時間の中で辛いこともありましたが、面白く、長くも短い時間でした。

ジャンボリー大集会に、皇太子様や野口聡一さんが来たので驚きました。

大分県と埼玉県のスカウトと交流ができて、とても楽しかったです。

閉会式の時に、次のジャンボリーが東京に決まった時は、とても嬉しかったです。



杉並2団 BS隊 富澤 和生

僕は日本ジャンボリーでさまざまなことを学びました。まず、一週間のキャンプの大変さという事です。

僕たち第3隊は、サブキャンプの一番端っこにあり、トイレとシャワーがとても遠くて、往復で10分~15分ぐらいかかりました。

ジャンボリー中は、ジャンボリーゲーム日本一、サターン、アース、ジュピター、マーキュリー、ヴィーナス、友情ゲームがありました。僕たちクマ班は、ジャンボリーゲーム日本一は行けなかったですが、そのほかのゲームにはすべて行きました。その中で一番楽しかったのは、マーキュリーで、海水浴をしてとても気持ちよかったです。

僕がジャンボリーで一番驚いたことは、ジャンボリー大集会で皇太子殿下と野口聡一さんが来てくださり、大集会を盛り上げてくれたことです。

僕は友情ゲームで他のスカウトの人とたくさん話ができ、たくさん友達できて、ジャンボリーに行けて本当に良かったと思いました。

次の日本ジャンボリーの開催地が東京に決まって、とても嬉しかったです。



杉並3団

杉並3団 BS隊隊長 左奈田 将実

ジャンボリー期間中は暑い日が続きましたが、天候にも恵まれ、大きな事故や傷病者も無く、杉並公会堂で無事に解散できたことは、大変良かったと思っています。今年の準備からお世話になりました地区の指導者の皆様には感謝申し上げます。

長い大会期間中において、多くのことを指導者として「観て、聞いて、体験をして」みて、とても勉強になることが多く、またこれはスカウト活動なのかと疑問に思うこともあり、いろいろな事を感じることが出来ました。

その中で、普段は別に活動を行っている他の指導者やスカウト、また1万2千人の参加者との野営生活はとても刺激になりました。

指導者としての参加でも、多くの事を感じることが出来ますので、次回以降のジャンボリーにも多くの指導者が参加されることをお勧めします。



杉並3団 BS隊副長 内田 朋子

今回のジャンボリーは、今までの派遣隊方式ではなく、自団の隊のままで参加する方式となった。隊で参加希望者を募ったところ、案の定、受験組の年代は、夏期講習と重なるとのことで参加見送り。そして4月に上進したばかりの小学6年のスカウトも参加することとなった。女子スカウトの参加がある場合は、女子リーダーが必要とのことで、8月のこの時期にまとまった休暇を取れるリーダーとなると、おのずと絞られてくる。もう、行くしかないか！

初の参加方式となったため「さまざまなことが誰もわからない」という事態に何度も遭遇する。はたして何か起こるのか、どこまで「そなえよつねに」なのか、手探りの会議が何度も続いていく。

途中であすなる地区は4隊編成が、参加者の減少で3隊編成に変更との連絡があった。果たしてこれまでの日々は何だったのか。進まない会議に深まる謎、しかし、時は過ぎていく…。

再編成して、事前集会・事前キャンプをこなしていく。初めて会うリーダー、スカウトたちも最初はぎこちない。各隊の集会やキャンプのスタイルも微妙に異なるため、すりあわせつつ、より良い方法を探していく。そんななか、やはりスカウトたちは数を重ねるごとに打ち解けていく。一度打ち解けると、その後の速度は速い。

杉並公会堂からバスに乗り、石川県珠洲市へと向かう。長いバス旅の始まりだ。着いた会場は、珠洲の海からなだらかに登った丘で、見渡す限りなにもない牧草地が生活のベースとなる。

早々に開所式を行い、設営に取りかかる。さあ、ジャンボリーの始まりだ！A型テントをたて、立ちカマドを作る。各班ともに声をかけあい、作業が進む。容赦ない陽射しと暑さに、「10分休憩」のかけ声がとぶ。

連日の暑さに体調を崩すスカウトが出てくる。スカウトへの早めの声かけで、深刻な事態になることを予防する。

3日目を過ぎると日々のペースができて、スカウトたちは絶好調となる。見ているこちらにも笑顔がふえ、最高の時だ！毎日さまざまなプログラムが行われ、元気にサイトを出て、笑顔で戻ってくる彼等を見るたびに、心が温かくなる。サイトに合流している香港スカウトとも、身振り手振りで交流している。すれ違いざまのハイタッチ、そこかしこでのハグ、もうハイテンションになってくる。

初めての長期野営を経験してみて、改めて“経験する”ことの大切さを感じた。

そして、この感動の気持ちを忘れずに、日々の活動を行っていきたい。



杉並3団 VS隊 山崎 ひかり

最初で最後のジャンボリー。ベンチャーとして周りを見るなんてできなくて、自分のことだけで精一杯だったし、日本一ゲームでもなにも結果を残せなかった。しかし6泊7日の超長期キャンプを終えたことに意味がある。

始まる前に立てた目標は、「交流を大事にする」ことで、他団との交流会や友情ゲームでは、自らその環境を作ることができた。他にもすれ違うたびの挨拶、大集会の盛り上がりなど、全国のスカウトが自分たちで雰囲気を作って楽しもうとしているのがよく分かった。こんな大規模な大会、当然知らない人だらけだ。彼らに共通するのは「スカウトである」ことだけだ。それだけで皆が仲間であるという精神を持って活動していることを再認識し、感動した。

「スカウト活動には国境がない、無条件に仲間である」という理念は、世界において重要である。





ボーイスカウト人口は少なくなっているが、やはり必要な存在なのだと強く感じた。
さて、私はジャンボリー中、調子を崩すことが多かった。さまざまな方々に支えられて、最終日を迎えることができて、本当に良かった。そしてさまざまな経験、考えに至ることができた。
この夏、ジャンボリーに行けたことを嬉しく思う。

杉並3団 VS隊 中村 泰葉

今回のジャンボリーは石川県珠洲市だったため、昼間と夜の気温差が激しく、また湿度が高かったため、じめじめしていましたが、プログラムやキャンプ生活を楽しく送ることができました。

たくさんのプログラムがあり、どれも楽しかったですが、1番印象に残っていることは普段のキャンプ生活です。

私は第3隊のスワロー班に所属していました。この班は杉並第2.3.4.5団のベンチャー隊が集まってできた班です。ほとんどの人が初対面だったのですが、準備キャンプや集会を重ねるごとに仲良くなり、チームワークがとても良く、一緒にいてとても楽しい班になりました。

スワロー班で過ごしたジャンボリー生活はとても良いものになり、色々なプログラムでも、普段のチームワークが活かされたと思います。

ジャンボリーに参加したのは今回が初めてで、3泊以上のキャンプをしたことがなかったため、初めは不安がたくさんありました。しかし、不安よりも大きい楽しさや嬉しさを感じることができて、良い思い出になりました。

また、他の団の人とキャンプをすると、今まで自分がやってきたことが役に立つ場合と、そうでない場合があり、いろいろなことを気づくことができました。このことを忘れずに、これからの活動に活かしていきたいと思います。ジャンボリーに参加できて本当に良かったです。

ジャンボリー中に誕生日を迎えた私に、サプライズでお祝いをしてくださり、本当に素敵な16歳をスタートできました。ありがとうございました。



杉並3団 VS隊 東 良真

今回のジャンボリーでは「何か目標を持つこと」の話がありましたが、ぼくの今回の目標は「交流」でした。

理由は僕があまり人と話すのが得意ではないからです。特に初対面の人は苦手で、今までは挨拶程度しか無理でした。しかし今回のジャンボリーでの交流会やハイタッチの挨拶で、少し人に慣れる事ができ、初対面の人でも食事兼交流会などの空いた時間で、おすすめの場所やおいしい物などについて軽く話をする事が出来るようになりました。

行く前は7日間と長く、あまり乗り気ではありませんでしたが、いざ行ってみると暑いものの、楽しめるプログラムばかりでした。

話せるようになった交流会では、ワッペンやネッカチーフを交換することができ、ジャンボリーの主催者が用意したプログラム以外にも、十二分に楽しむことができました。

まだジャンボリーに参加していないスカウトにも、紹介したいと思いました。



杉並3団 BS隊 山崎 渉

今回のジャンボリーで、様々な貴重な体験ができました。普通のキャンプにはないジャンボリーならではの日本一ゲームや友情ゲーム、宗教プログラムなど、日本全国からスカウトが集まっているからこそできるものが多く、とても楽しめました。

特に大分県のスカウトとの交流プログラムが印象に残っています。大分県のスカウトの方が先に話しかけてくれたので、話題にも困らず、仲良く話すことができ、ワッペンの交換もできたので、とても楽しめました。

改めて、スカウトが全国にいることを感じ、スカウト同士が友達ということを実感しました。

「スカウトは親切であり、快活であり、友情にあつい」ことを学べたプログラムとなったので、今後に活かしていこうと思います。



杉並3団 BS隊 深浦 柁希

一週間という長いキャンプに行って、「かなり疲れた」が正直な気持ちですが、普段の生活ではできないことをたくさん経験できたので、とても楽しかったです。

今回のキャンプでは色々な人と関わりを持つことができました。同じ第3隊のみんなや自分の班の班員、交流会をしてワッペンやキーホルダー、ネッチリングなどの交換をした大分、埼玉のスカウト、交流会はできなかった他県のスカウト、たくさんのスカウトと関わりを持ってました。

普段の生活やボーイスカウトの活動中に、こんなに多くの人に会ったり、関わりを持てることはないので、とても貴重な体験をしたと思います。

キャンプ中、一番たいへんだったのはグリーンバーとしての活動です。仕事の仕方や指示の出し方など、工夫しなければいけないことがたくさんありました。今回のキャンプは長く、疲れが出て、体調を崩す人も多いキャンプでした。自分も日に日に集中力や体力が無くなってきて、うまく指示が出せなかったり、動けなかったりしました。そのせいで、一つ一つの行動が遅れたり、できなくなってしまうこともありました。でも、いつも以上に仲間と協力し、同じことに真剣に取り組めたことで乗り越えられたこともありました。

ジャンボリーで班長を経験し、自分の良かった点、悪かった点を再確認できたことは、とても良かったと思います。この経験は、今後の隊キャンプで活かしていきたいと思います。

今回のジャンボリーは、平成最後の夏にふさわしいジャンボリーだったと思います。これからのキャンプや隊プログラムなどに、ジャンボリーで経験した多くのことを活かし、より良い活動をしていきたいです。

4年後のジャンボリーは「東京」。その時、自分は高校3年生です。参加できるかどうか、今はわかりませんが、ぜひ参加したい！今回のジャンボリーで出会った仲間と再会したい！できなかったことをできるようにしたい！

ジャンボリーでは班長として大変なこともありましたが、楽しく過ごせた一週間は夏の大きな思い出になりました。



杉並3団 BS隊 高村 明寿

ジャンボリーに行って、プログラムも楽しかったけれど、野営生活をとても楽しいと思うことができました。また、長期の野営生活は人間性がでてしまうこともわかりました。

「一週間ずっとがんばって班の仕事をこなしている人」、「指示されれば動くが、それ以上のことはしない人」、「他人に丸投げで動こうとしない人」。この「他人に丸投げで動こうとしない人」が少なかったのが、楽しく野営生活を送れていたのだと僕は思いました。

そしてそういう人がいても、みんなで補って仕事して、一週間で過ごすことが出来ました。

しかし僕は4、5日目にはプログラムに疲れていて、「指示されれば動くが、それ以上のことはしない人」になっていたと思います。このことに気づいた後は、プログラムを全力で楽しんだ後、「頑張ってる班の仕事をこなしている人」に向かって努力することができました。

ジャンボリーのプログラムはどれも楽しかったですが、一番楽しかったのはワッペンの交換会や友情ゲームなど、他の隊や班との交流でした。交換した物のなかで一番嬉しかったものは、岐阜の方からもらった焼き物のチーフリングです。ワッペン2つと交換してもらい、青色の物を交換しました。

交流会ではスタンプをしたり、見たりして、他の班のスタンプの出来映えにすごく驚きました。

閉会式では最後の打ち上げ花火がとても印象的でした。最後の2発は爆発の衝撃で揺れた気がするくらい迫力がありました。次回の日本ジャンボリーが東京と発表されたときの東京連盟のスカウトの盛り上がり方も怖いくらいでした。

帰りたいたいと何回も言っていたジャンボリー会場でしたが、バスに乗って最後に見たときは少し寂しかったです。



杉並3団 BS隊 大久保 咲甫

私はジャンボリーを終えて、たくさんを感じたり、学んだりしました。

感じたことで印象に残ったことは、性別が違って、男女を意識する必要はないのだということ、一番学んだことはチームの団結力の大切さです。

私の小学校では男女差別があり、男女仲が良くありませんでした。例として、二つ挙げます。

一つ目は、先生が「手をつなぎましょう」と言ったとき、周りを見ていると小指同士だけでつないでいて、ちゃんと手をつないだと思えない人がたくさんいたことです。



二つ目は、ちょっと男子と話して笑っていたら「両思い」などと、からかってくる人がいたことです。このように、私は男女仲良くする機会が少なかったのです。

でもジャンボリーでは、知らない人と出会ったらハイタッチをしたり、挨拶をしたりなどと、性別に関係なく楽しく活動できました。別にこれにびっくりしたわけではありません。これが普通なのです。私の小学校の同級生の男子と女子は別物だという考えが普通ではないのです。看護婦を看護師に変えるなど、性別は関係がないのです。これからは、私の小学校のような人がいたら、優しく注意しようと感じました。

また私はこのジャンボリーで、同じ班の仲間と対立しました。そのため、決まった時間に遅れたり、不満をひとり抱えてしまった班員がいたり、班の団結力が全く見られませんでした。

私が帰る日の一日前の夜に、班長ではないけど自分が分かる範囲で、時間に遅れず、そしてみんな平等になるように声を出しました。その結果、不満を一人で抱える人もいなくなり、私にも指示を出してくれる班員が出てきました。

ジャンボリー以外でも、決められた時間は守らなければなりません。ジャンボリーで班長だけが指示をするのではなく、わかる範囲でいいので、班員でも指示をしなければ何よりもチームの団結力が高まらないことを学びました。

今後、この学んだことを活かせるよう、ボーイスカウト以外でも声を出していきたいと思いました。

ジャンボリーで経験したことは本当に貴重でした。皇太子様や野口聡一さんに会えることもできました。このような機会はめったにないことだと思います。この経験をいつまでも忘れないように心に刻んでおきたいです。

これからも一つ一つの経験を大切に、チームで団結し、性別に関係なく楽しく活動していこうと思いました。

杉並3団 BS隊 柴田 門

今回は7日間という、経験したことのない長期キャンプでした。

そのため初めてのことばかりで、色々なことがうまくいきませんでした。生活の中で不便な事もたくさんありました。シャワーの水がとても冷たかったり、トイレまで遠かったり、会場が広くてどこがどこか分からなくなったり…。でも最後まで楽しくやりきることができました！

それは、くま班のみんな、第3隊のみんな、本ジャンボリーに参加しているみんながいてくれたからです。同じボーイスカウトの仲間がいたから、楽しいキャンプになりました。

このキャンプでは、たくさんの人と一緒に生活して、いつもと違う事をして、毎日色々な事を学びました。その中でも外国のスカウトと英語で話せた事がとてもよかったです。

香港スカウトとは、一緒に料理したりしました。その時に英語で喋り、相手が分かってくると、すごく気持ちよかったです。ボーイスカウトを通じて、たくさん外国の人と喋れて楽しかったです。前より積極的に外国のスカウトに声をかける事が出来るようになりました。来年は世界ジャンボリーにも行くので、この経験を活かしたいです。

また、全国のスカウトとワッペン交換をして、交流できたので良かったです。私はサインを集めていたのですが、たくさん集まっていい思い出が残りました。

交換した人と「どこから来たの？」から始まり、色々な事を話せました。ほんの少しだけの出会いでも、すぐに打ち解け、話せるところに、“やっぱりボーイスカウトってすごいな”と思いました。ジャンボリーで、ボーイスカウト友達をたくさんつくれました！



私がこのキャンプで一番印象に残ったことは、開会式などの大きな式です。会場も大規模で、大きなスクリーンがあることにも驚きました。式が始まるとみんな盛り上がり、ライブ会場みたいでした。私はこういう経験をしたことが無かったので、とても新鮮で楽しかったです。

各団のスカウトによるパフォーマンスを見たり、歌ったり、時にはペンライトを振り回したりして、とにかく盛り上がり、楽しかった！そこで初めて「ボーイスカウトってこんなに大きな団体だったんだ」と気が付きました。改めてボーイスカウトのすごさが分かりました。

このジャンボリーでは、班がまとまらず大変だったこともありましたが、少しずつは良くなりました。

班のみんなが仲良く笑っている方が断然楽しいので、キャンプにおいてチームワークは必要不可欠なのだと思いました。

これからも班の仲間を大切にしていきたいです。今回、たくさん事を経験して自分が成長できました。そして、どの経験も一生の思い出に残る、とても貴重な7日間でした。ジャンボリーに参加できて良かったあああー！！



杉並3団 BS隊 深浦 玲

ジャンボリーに参加する前、「一週間とか長い〜!!」とっていました。実際、行ってみると一週間はあっという間で、短く感じました。

たくさんのプログラム、色々な県のスカウトとバッジやワッペンとの交換、すれ違うスカウトとハイタッチ!!どれもこれも、普段の生活では体験できないことの連続でした。

ジャンボリーで学んだことは二つあります。

一つ目は「仲間」です。自分の班だけでなく、となりの班、第3隊の仲間と一人ひとりが仲間を意識して一週間を過ごしました。

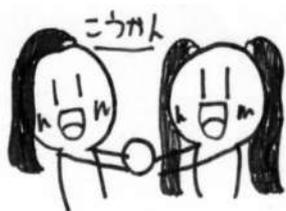
バスの中でみんなで話したり、大集会のライブでキャーキャーしたり、水をかけ合ったり、料理を作ったり、プログラムではみんなで協力して、たくさんのスカウトと友だちになりました。

「次も絶対会おうね、これからも仲良くしようね」って、LINE・メール・電話番号の交換…本当に楽しかったです。

二つ目は「協力」です。一週間という長い日々で、体調をくずしてしまう人が多かったです。そんな時、いつも以上にみんなで協力することができました。

食事の準備、荷物の整理、プログラム、一人ではできないことも、みんなで協力することで、達成できました。

自分のできることは積極的にやる、できないことはみんなで助け合う…。疲れてきてケンカになることもありました。ケンカしたことでお互いの気持ちがわかり、成長できたと思います。一人一人が全力・本気・メリハリをつけて取り組んだので、本気で楽しむことができたと思いました。



ジャンボリーで学んだ二つのことは、ボーイスカウト活動だけでなく、学校、普段の生活の中でも意識して行動していきたいと思っています。また、参加できなかったスカウトにも「仲間」と「協力」の大切さを伝えたいです。

閉会式で、4年後のジャンボリー会場は「東京」と発表されました。4年後のジャンボリーも参加し、仲良くなったスカウトと会いたいです。そして、今回で学んだことを生かし、もっと仲間と協力してより良いジャンボリーにしたいと思っています。

東京は私が生活している場所なので、他の県のスカウトに東京のよいところをたくさん見つけてもらいたいです。次のジャンボリーまで、スカウト活動をがんばろうと思います。



杉並3団 BS隊 都筑 大輔

僕はジャンボリーに行くのに、「めあて」を立てました。

その「めあて」とはプログラムの中にあり、ジャンボリーの期間中の生活に活かすということでしたが、達成出来た事と出来なかった事がありました。

○達成出来た事

・友情ゲームで自分から率先して話しかける。

「そ、な、え、よ、つ、ね、に」のカードを持った人を全員そろえ、話しかける事が出来ました。

○達成出来なかった事

・「リコロ」という物を作った時に、ナイフが上手く使えなくて出来ませんでした。

達成できた事は今後のキャンプ等のボーイスカウトの活動や、学校生活でも活かしていきたいと思っています。

逆に達成出来なかった事はなぜ出来なかったのか考えて、出来るように努力して、次のキャンプや家での生活に役立てるようにしたいです。

ジャンボリーは荷物は重しい、大変な事もたくさんあったけど、楽しかったです。



杉並4団

杉並4団 BS隊隊長 的場 健

ジャンボリーの参加は高校生の時、平成6年の第11回久住高原以来の参加でした。当時は上級班長の役割での参加でしたので、今回は初めて指導者の立場での参加となり、事前の準備、現地でのスカウトの生活や活動に不明な点や、イメージが湧かない点なども多くありましたが、皆様のおかげで何とか準備を進め、本番当日を迎えることができました。

スカウト自身も事前の第3隊の合同隊集会の実施で交流を深めることができ、スムーズにジャンボリー当日を迎えることが出来たのではないかと思います。

ジャンボリー期間中は好天に恵まれ、暑い日々ではありましたが、スカウト・指導者共に暑さに負けることもなく、元気よくプログラムへの参加、日々の生活、隊内、他地区、他国スカウトとの交流を行うことができ、とても良い経験を積むことが出来たのではないかと思います。

ジャンボリーへの参加形式についても、これまでの派遣隊方式の混成班ではなく、第3隊では各団の枠組みをベースに班編成したことで、普段の活動で培ってきたチームワークや、メンバーシップを存分に活かすことが出来ました。

また、指導者側も隊長会議とは別にリーダー会議の場を設け、コミュニケーションを十分にとって事前の準備集会やジャンボリー本番に向けた準備をしっかりと行えたことが印象的でした。

今回のジャンボリーに参加したスカウトの中には、自団以外のスカウトとの交流がとても楽しかったスカウトが多かったようで、外に対して目を向けられるようになったスカウトが出てきたことは、ジャンボリーに参加できなかったスカウトや後輩にも良い影響が出ればよいと考えています。

次回の日本ジャンボリーは東京での開催との発表がありました。その時も何かしらの形で関わればと思います。



杉並4団 VS隊 中村 晃洋

今回初めてジャンボリーに参加して思ったのは、普段の長期キャンプよりもいろいろな所が楽しかったということだ。

普段ならタープがうまく立てられなかったり、雨などで薪が湿ってうまく火が着かないことがよくあった。

でも今回はリーダー達や、現地のボランティアの方たちに助けられて、とても余裕があって、キャンプ自体を楽しむことができた。それに普段のキャンプだと体験できないプログラムやイベントもあり、充実したキャンプだった。

中でもプログラムでは日本一ゲームがとても印象的だった。班の仲間と相談しながら、なるべく高く班旗を掲げようと頑張ったのがとても楽しかった。

他にも別の県のスカウトや外国のスカウトと交流したのも、とても楽しかった。

来年アメリカで世界ジャンボリーがあるので、叶うなら行きたい。



杉並4団 BS隊 長谷川 晟

ジャンボリーに参加して楽しかったことは、他県や香港スカウトとのワッペン交換やプログラムで、すべてが楽しく、一週間がアツという間に過ぎていきました。

ジャンボリーでの班長という大役も、一年続けてコブラ班の班長をやっているの、いつも通りやればよいという気持ちで、特に緊張することもなくできました。

来年は世界の人と交流できる世界ジャンボリーに、ベンチャーとして参加できればいいなと思います。



杉並4団 BS隊 鈴木 那智

僕はこのジャンボリーがとても楽しかったです。いつも自分達の4団で行なうキャンプよりも、リーダー達のおかげで楽な部分もあって、生活に余裕があり、存分に楽しむことができました。

しかし、この楽しさに甘えてしまっていた自分もありました。例えば「テント乾燥をいつも通りにしてください」と言われたのに、いつものようにできていなかったり、工作物も作るよう言われたわけではないけど、ちょっと適当になってしまいました。

しかし良かったこともあります。一つ目はいつものキャンプは木陰の多い山などで、陽射しが強いのは経験がありませんでしたが、熱中症でキャンプできなくなる人がいなかったことです。

二つ目は立ちかまどが7日間壊れずにもったことです。自分の団のキャンプの時でも、強い立ちかまどを作りたいです。



杉並4団 BS隊 友部 遥斗

今回は初めてのジャンボリーの参加になりましたが、僕はあまり心配はなく、ワクワクしながら深夜バスに乗って移動しました。

深夜バスに乗るにも僕は初めてでしたが、バスの車内にもぎやかだったので、気持ちも穏やかで、楽しく過ごすことができました。

キャンプ場は今までよりもはるかに広くて、とにかくテントがたくさん張ってありました。それを見て、「たくさんのボーイスカウト隊が来ているんだな…」と、改めて思いました。

僕がプログラムで印象に残ったことは、丸太スライスレースと友情ゲームです。

丸太スライスレースでは、オットセイ班のメンバーで協力して、ボーイ隊で5枚切ることができました。

友情ゲームでは、全国のスカウトが「そなえよつねに」の文字をそろえるゲームで、あすなる地区は「え」を持っていたので、その他のカードを持った人を探して、共に行動して行くゲームです。最初はあすなる隊で行動していたので、一人になった時はどうなるかと思いましたが、他の人と合流することができたので良かったです。

僕にとっては、初めての事ばかりの貴重な経験になり、思い出に残るジャンボリーだと思いました。



杉並4団 BS隊 高木 和弥

今回ジャンボリーに参加して、私はとても楽しかったし、さまざまなことを知ることもできました。こんなに規模が大きいキャンプは今までなかったので、はじめは移動に時間がかかって大変だと思ったけど、慣れてくると景色を見ながら歩くのが楽しくなりました。

ジャンボリーで一番驚いたのが、他の団の備品についてです。私達の杉並4団はAテントに寝て、ドームテントを荷物置き場にしてありますが、他の団の多くが大きい目のドームテントをいくつか持ってきて、それに寝ていました。

さらには立ちかまどを作らずに、金属製のかまどを持ってきている団や、小型のソーラーパネルを持ってきている団があり、こんなものを持ってくる団もあるんだなと思いました。

2番目に驚いたのは、キャンプ場内の設備です。キャンプ場内にシャワーやショップがあるのは事前に聞いていましたが、本当にあるのを見たときはびっくりでした。シャワーは仮設にしては、しっかりできていると思いました。キャンプ中にシャワーを浴びられたのは、とても快適でした。トイレも仮設ですが、きれいで使いやすかったです。

ショップはキャンプ地から遠くて行きにくかったのですが、飲み物、食べ物を買えたのが便利でした。記念品は列ができていて、あまり買えませんでした。キャンプ生活が快適で便利だったので、とても良かったです。

またキャンプ中のプログラムも、とても面白かったです。丸太切りレースや班旗立てなどの競技や、海水浴のようなお楽しみまであって、特にとても暑い中での海水浴は、時間は短くても涼しくて楽しかったです。

班旗立てはギリギリのところまで時間切れになってしまい、「記録なし」になってしまったのが良かったです。



杉並4団 BS隊 小池 隆

今回のジャンボリーに参加して、とても楽しかったと思います。荷物の準備をしている時は、初日にいつも通り食事が作れず、お腹が空いて死の一步手前になると思ったり、すぐに火が消えないようにしたり、防虫スプレーやトイレトペーパーや、マッチがぬれないように工夫して持っていたり、お風呂に入れずベタベタして寝られないと思ってシャワーシートを持っていたり、雨が降って靴がびしょぬれにならないように長ぐつを持っていたのに、今回はそんな心配はしなくてよかったです。



たとえば、火はすぐについて消えなかったし、雨の日でもガスコンロを使わせてくれたし、お風呂は毎日入れたし、雨は降りましたが、そこまで降らなかったからです。

このキャンプでは、普段のキャンプにはない開会式や大集会や閉会式のプログラムがありました。また「丸太切りレース」や「班旗立て」などに参加しましたが、一番楽しかったのは海水浴で、8年ぶりに海に入って泳いだので、すごく楽しかったです。

またふだん会ったり、話したりしないフィリッピン、香港、埼玉、群馬、千葉、沖縄のスカウトと話したことも、良い思い出です。

開会式に来たアンブランフォードさんたちの「能登のチカラ未来へ」や「HORIZON」や大集会に来た吉田山田の「日々」が今でも耳から離れません。本当はアンブランフォードさんたちの曲が入っているCDを買うつもりでしたが、ショップを訪れた時には売っておらず残念でした。でも家族のおみやげを買えたのでよかったです。

キャンプを終え疲れはしましたが、いろいろなプログラムがある楽しいキャンプで、かなりの達成感を感じました。

杉並4団 BS隊 高田 恵也

今回のジャンボリーで印象に残ったことは、「他の県の隊との交流」、「ワッペン交換」、そして「友情ゲーム」の三つだ。

まず1つ目の「他の隊との交流」は、その県で自分が知らない名物や有名なものを知ることができからだ。今回、僕たちが交流したのは、埼玉県と大分県の2県だった。

2つ目の「ワッペン交換」は、他の県や地方のレアなワッペンがもらえたりするだけでなく、他の県の人と話したりして、交流することもできるからだ。

3つ目の「友情ゲーム」は、ボーイスカウトのモットー「そなえよつねに」の7文字のうち、1文字だけ書いてあるカードを持ち、他の6文字のカードを持つ人とチームを組んで、近くのキャンプサイトの本部に行き、揃ったことを制限時間内に報告するというゲームだ。

このゲームで、僕は千葉、兵庫、大阪、埼玉の人などとチームを作ることができた。

今回、僕はジャンボリーで自分の知らない人と関わったりすることが多かったのも、これからは積極的に人との関わり合いをしていきたいです。



杉並4団 BS隊 川原 拓馬

僕はジャンボリーでたくさんの新しい体験をしました。

まず第一に全国のいろいろな人と交流したことで、全国から人が集まることはそうそうないでしょう。

次に、7泊8日という長期間のキャンプで、7日間にわたる野営は、さすがに疲れましたが、ボーイスカウトのキャンプは、自分達でご飯をつくり、生活するので楽しかったです。

ジャンボリーはふつうのキャンプと違って、宇宙飛行士や皇太子さまも来て、一生忘れないキャンプとなりました。

ジャンボリーで出会った人と、また会えたらいいなと思いました。



杉並5団

第3隊隊長 杉並5団隊長 森 宇宙

暑いジャンボリーが終わり、何はともあれ全員が元気に帰京できたことにホッとしています。ジャンボリー前には「リーダーが君たちを楽しませてあげるのではない。君たちが主体的に楽しむのがジャンボリーだ」とスカウトに話していました。

正直に言えば、この言葉を意識していたスカウトはほとんどいなかったと思います。しかし、第3隊のスカウトは意識せずとも、感覚的にこれを体現していました。時にのびのびしすぎて、リーダーに注意を受けた点もありますが、それはご愛敬。この素晴らしい第3隊でのジャンボリーを、私自身も大いに楽しむことができました。



あすなる地区のキャンプサイトは、会場北端のサブキャンプ内でも、外れに位置していました。

トイレ、水道も遠く、タイトなスケジュールの中で、アリーナやプログラム会場への移動も長くかかりました。期間中には楽しいことだけでなく、つらいことや嫌なこともあったと思います。しかし、苦楽を糧にしてこそボーイスカウト。仲間と過ごした暑い7日間が、スカウトにとって最高の宝物になったことと信じています。

さて我々第3隊ですが、リーダーのチームワークが良かったと自賛しています。ジャンボリーという特殊性も踏まえた柔軟な対応により、「スカウトファースト」をリーグ一間で共有できたことが、一番の要因だと思います。

私自身は色々と至らぬ点も多かったのですが、他リーダーの目配り、気配り、心配りに助けられたこと、大変感謝しています。

そしてスカウトの笑顔こそが、リーダーにとって最高の報酬です。

ジャンボリーを楽しみ、素晴らしい笑顔を見せてくれた第3隊のスカウトに、最大級の感謝です！

杉並5団 BS隊副長補 稲川 拓海

今回の日本ジャンボリーは素晴らしいものになった。私はこれまでに15回日本ジャンボリーと23回世界ジャンボリーに、いずれもスカウトとして参加した。そのため、今回のジャンボリーが初めての指導者として参加となった。

私は参加するうえで、スカウトが「ジャンボリーでの経験を一生のものにする」ということを目標にし、それを意識して指導を行うようにした。例えばグリーンバー会議では、スカウトがジャンボリーを楽しむことが出来るようにアドバイスすることを意識した。

スカウト達は連日の猛暑の中でも、様々なプログラム、アリーナショーや宗教の集い等に積極的に参加していた。

特に交流会等では、初めこそ緊張していたものの、他県や外国のスカウト達と積極的に交流する姿が見ることが出来て良かった。ジャンボリーはスカウト自らが積極的に参加していくものであるが、指導者としてそのサポートをすることが出来たと考える。初めての指導者としてのジャンボリー参加ということもあり、指導するうえでの反省点は幾つかある。

しかし全体的に見て、スカウト達が楽しんでいたので結果としては良かった。このジャンボリーがスカウト達にとって忘れられない良い経験になったのではないかと考える。

2022年の18回日本ジャンボリーは東京で開催される。第3隊のスカウト達が今回の経験を生かし、指導者やスタッフとして積極的に参加してくれることを期待している。



杉並5団 BS隊副長補 関戸 大輔

今回のジャンボリーは、自分にとって大きな経験になりました。

初めに、他県や香港スカウトとの交流が挙げられます。自分の拙い英語でも、香港スカウトとコミュニケーションをとることができました。これは、普段の英語の授業では習わないことなので、とても貴重な体験になりました。今後は多くの海外スカウトと交流できるように、コミュニケーションスキルを向上させたいです。他にも、日本全国や香港の文化を知ることもできました。彼らがゲートの旗に書いたキャラクターが印象に残っています。

二つ目に、他団との合同のキャンプが挙げられます。一緒にキャンプすることで、団によっての



共通点や相違点を知ることができました。

加えて、地区内での繋がりも増え、より強いまとまりになったと思います。この繋がりを今後も広げて、大事にしていきたいです。

三つ目に、指導者としてスカウトの成長を実感することが出来ました。一週間でも、環境次第で人は成長できると肌で感じる事ができました。今後指導者として、スカウトが成長できるような環境作りをしていきたいです。また、ローバースカウトとして与えられた環境で高みを目指し、今回の経験を今後のスカウト活動に活かしていきたいです。

杉並5団 VS隊 関戸 陽輔

ジャンボリーが終わってしまいました。自分は2度目の日本ジャンボリーだった。1度目は中1だったため、ほとんど何もできなかった。

今回は高3で、スカウトの最年長として参加した。去年と一昨年にアメリカとモンゴルに行き、多くの仲間と出会い、思い出を作ってきた。自分がここまでスカウト活動が続けてきたのは、仲間が増える喜びや、何にも代えがたい思い出のためであろう。

今回のジャンボリーではシャワーが水で、40度近くなる中、クーラーのない生活をした。普段の生活に当たり前のようにあるものがなく、不自由ばかりの生活だった。それでも、周りにいる仲間と過ごす時間はとても濃く、楽しかった。仲間にもリーダーにも恵まれた。

日本ジャンボリーは、四年に一度しか開かれないこそ行く価値があり、行きたいと思え、キャンプの楽しさを再確認できる特別なイベントなのであろう。たった1週間で、ここまで人と人の距離が縮まり、一生続く関係が生まれるものなど、そうあるものではない。ジャンボリーでしか学ぶことができず、得ることができない、思い出と経験を今後の生活に生かし、もっとスカウト活動に励みたいと思う。



杉並第5団 BS隊 大脇 智裕

今回のジャンボリーはいつものキャンプと違う一週間の長いキャンプで、他の団や香港のスカウトと同じサイトで過ごす充実した生活で、さまざまな体験や出会いがありました。

香港のスカウトとは言葉が通じ合わないので、コミュニケーションをとるのに苦労しましたが、ジェスチャーなどを使って、日を重ねるごとに意思疎通ができるようになりました。

大分や埼玉の隊との交流会もあり、とにかく一週間を通して、交流がとても多くありました。ジャンボリーではプログラムも充実していて、ふだん体験できないクライミングや、班対抗の班旗立て、さらに海水浴など、とても楽しい時間でした。

そしてジャンボリーのメインイベントともいえる開会式、閉会式があり、ジャンボリー大集会では会場に集まった1万人以上の盛り上がりには負けないように、自分たちも精一杯声を出しました。地元の伝統的な技や、スカウトの演技にも圧倒されました。

ジャンボリーの一週間はたくさんの人との出会いに恵まれた日々で、充分楽しむことができました。楽しかっただけで終わらせるのではなく、この一週間で学んだことを、次のキャンプに活かしていきたいです。



杉並第5団 BS隊 嶋崎 達也

僕が特に心に残ったプログラムは、ジャンボリー大集会で、大勢の前でタップダンスを一人で踊っている姿がとてもかっこよかったです。ヲタ芸をサイリウムではなく、あえて手旗でやっていたのはいい事だと思いました。ライブではみんながとても盛り上がっていて、楽しかったです。

ジャンボリーの参加人数を聞くと、あまり多くないような気がしましたが、全員参加の開会式の時に周りを見ると、想像以上に人が多くて驚きました。

夜寝られるか不安でしたが、プログラムでヘトヘトで、毎日よく寝る事ができ、毎日美味しいご飯が食べられたので、お腹がすく事はありませんでした。

暑くて汗をたくさんかいたので体中が痒く、引っ掻いた所が海水でヒリヒリして辛かったです。

ショップの横で何時間も昼寝していたので、みんなあまり疲れていなかったのですが、シャワーが冷水でリラックスが出来なかったため、今度は温水にしてもらいたいです。



自由時間に他団の人と話せて仲を深める事ができ、ワッペン交換などでは、他の団のチーフを貰う事が出来たので嬉しかったです。プログラムで他県の人達との交流もあり、県外の友達が出来ました。

4年後の日本連盟100周年の日本スカウトジャンボリーの時には、スカウトとして参加出来る最後のジャンボリーなので、今年出来なかった事を積極的にやりたいと思います。

杉並5団 BS隊 辻 凜太郎

今回のジャンボリーは通常のキャンプに比べて、規模も人数も経験したことのないもので、身についたことは、主に3点あります。

1. 班長としての責任と班員への気配りです。
2. いつもの班の仲間だけではなく、他の班員と交流したり協力したりすること。
3. ジャンボリーではとにかく楽しむ！



最初の1.は、班員の中で初めてのキャンプがジャンボリーという女の子がいました。また、自分は初めての班長をジャンボリーで経験しました。こういう不安な状況の中で始まったため、最初はかなり苦戦しました。また期間中は非常に暑く、熱中症が流行っており、かなり班員に気を配らないといけなかったです。しかし、班内から重病者を出すこともなく、安全に過ごすことができたため、ジャンボリーが終わってから安心し、またやりきった実感を持つこともできました。

2.はジャンボリー中は杉並2団、3団、4団、5団と、合同班での生活でした。普段は活動しない他の団のメンバーでキャンプをするのはとても新鮮でした。また、隊によってやり方が違い、勉強になりました。そこでみんなの笑顔も増え、とても貴重なものとなりました。今後はこの繋がりを大切にしていきたいです。

最後の3.は、ジャンボリーは楽しいプログラムや集会が盛りだくさんありました。そこでは県の違いなどを感じさせないほど、多くの人と盛り上がりました。僕は他県の人と写真をたくさんとったり、物を交換したり、香港人と一緒にキャンプしたり、交流をして、とても素敵な経験、思い出となりました。

最後に僕は来年の世界ジャンボリーに参加します。選抜で僕が選ばれたので、他の人の分まで多くのことを経験したいと思っています。

杉並5団 BS隊 笠利 伸

- ・思っていたよりもほかの団の人とたくさん友達ができたので、嬉しかったです。
- ・いつものキャンプよりも、ご飯がおいしく作れたので、たくさん食べれました。
- ・トイレがとても遠かったので、たまにもれそうなのを我慢したのがつらかった。
- ・交換用品が少なかったので、すぐになくなり、あとから交換できなかったのが、くやしかったです。
- ・キャンプ地で初めて自由に飲み物などが買えたので、いつもと違う気持ちでキャンプができました。
- ・友情ゲームの「そなえよつねに」の文字を集めるとき、多くの人に声をかけられた。声をかけることが出来たので、すぐに集めることができた。
- ・夜は東京よりもたくさんの星が見られたので、きれいでした。
- ・物がグチャグチャになってしまったので、次からは整理を心がけようと思いました。
- ・時間までに準備が出来なかったので、次からは早く準備しておくようにします。
- ・地面にゴミがたくさん落ちていたので、出したゴミはすぐにゴミ箱に捨てるようにしたいと思います。
- ・外国人と少しも話すことも出来なかったので、しっかり英語を勉強しようと思います。
- ・今回、忘れ物が多かったので、荷物は二、三回見て、かんぺきにしようと思います。



杉並5団 BS隊 田辺 優河

ジャンボリーで僕が楽しかったのは、ジャンボリー大集会で、みなが盛り上がり、いろいろな人がパフォーマンスをしていて楽しかったことと、大分や埼玉など、他県の人と交流会をしたことです。

困ったことは僕たちのサイトはAサブキャンプのはじめで、トイレが遠かったため、もれそうになりました。

また、立ちかまどは長い間もたせなければならぬので大変でした。

今回のジャンボリーに行って、いろいろな経験をして楽しかったので、次の東京のジャンボリーが楽しみです。



杉並5団 BS隊 安川 凜子

私にとって、このジャンボリーは夏一番の思い出になりました。ジャンボリーで仲良くなった友だちやいろいろな行事、激寒シャワー、外国スカウトとの共同生活など、はじめてだらけの共同生活でした。

参加が決まったときは楽しみより不安の方が多かったけど、ジャンボリーが終わって、私は「ジャンボリーロス」です。

一週間の長いキャンプで、大分や埼玉との交流があり、住所を交換したり、楽しくおしゃべりをしたりして、人見知りな私でもこのジャンボリーを通して、さまざまな国や県の人たちとお友達になりました。

そして、毎日の三食の食事を自分達で作るときの楽しさや、おいしくできるかな？と毎日ドキドキ、ワクワクしていました。

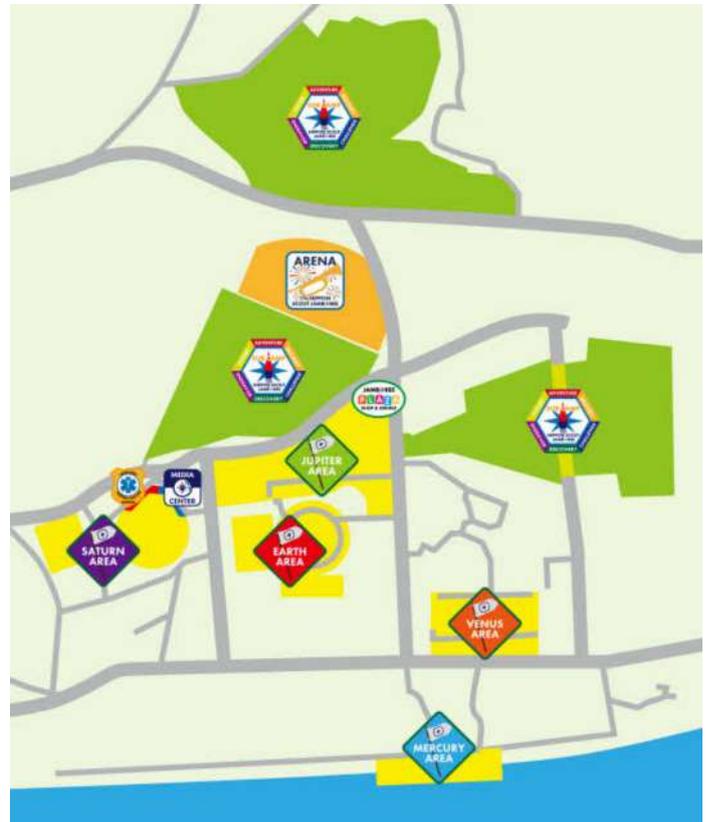
ジャンボリー日本一の班旗立てではみんな真剣になって、どうすれば倒れないかを考え、考えは良かったものの、時間がなく、おしくも失敗してしまいました。

驚いたこととして、宇宙飛行士の野口さん、皇太子様が来てくれたことで、想像をはるかに超えるオーラに圧倒され、また閉会式の最後に花火が打ち上がった時は、長い間上がっていたので、ずっと見とれていました。

ジャンボリーを通していろいろな事を体験し、学び、ふれあいました。この経験を活かして、日々成長していこうと思います。



17th NIPPON SCOUT JAMBOREE



大会運営スタッフの報告

ジャンボリーが円滑に運営できるように、大会本部には総務部、広報部、プログラム部、全体行事部、安全・救護部、輸送部、会場運営部、配給・食堂部、売店部が設けられました。

あすなる地区各団のリーダー、スカウトは、各部の業務に奉仕しましたので、みなさんの奉仕の内容や、苦勞されたことなど、寄稿いただきました。

安全・救護部で奉仕

杉並4団 BVS副長 桜井 祥一

本当に久しぶりのジャンボリー参加でした。日本ベンチャーでの指導者参加を除くと、前回の参加は1970年の第5回の朝霧高原ジャンボリーで、シニアスカウトとしての参加ですから、実に48年ぶりです。

今回は本部スタッフということで、その中でいろいろ役割は選べたのですが、「救護」という言葉に惹かれ、「安全・救護部」で申し込みました。結果は、その中の「安全管理班」。ちょっとイメージ違うかなと思いながら、現地に出発しました。

現地集合は2日の14時。参加隊到着の2日前です。夕方から行われたオリエンテーションでは、業務内容の詳細説明があり、不審者(車)の会場内侵入の防止と、会場内のスカウト・指導者・見学者の安全確保、自主的活動離脱者(いわゆる脱走者)のチェックを24時間、7班(各班5~6名)に分かれて行う参加者への安全サポートであることがわかりました。体力的にはきつそうです。

活動スタートは翌3日の12時からで、翌日の参加隊到着の予行演習を兼ね、仕事の確認から始まりました。

ここ珠洲では湿度は高いものの、それほどの蒸し暑さは感じなかったのですが、なにせ日差しが強い。警備ポイントには日陰もほとんど無いので、手足がジリジリと焼けていきます。これでは深夜シフト明けのテントでの睡眠は暑くて無理ということで、翌日から深夜のシフトは中止になり、ちょっとは楽になりました。

それでも、朝6時から24時までの18時間を5~6人で交代しながらの会場内警備は、気をつかうことも多く、サブキャンプから出てくる参加者が、着用が義務付けられているIDカードをちゃんと首からかけているかのチェック(サイトに忘れたスカウトは、ほとんどが取りに戻ってくれますが、指導者の場合は半分くらい)や、アリーナで行われる式典での誘導などで、安全管理班スタッフがみな同じ対応が取れるよう、本部と情報交換をしながら参加者と接することに努めました。

参加隊が退場した翌日に、本部スタッフも後片付けをして解散となりました。

解散のとき、安全管理班のメンバーとの間では、約13,000人も集まったこの会場で、多少口うるさい安全管理班スタッフであったかもしれませんが、ハンドブックに書かれている行動規範をみんなに守ってもらうことができ、ジャンボリー参加者が巻き込まれる事故が無かったことで、お役に立てたのではないかと話をしました。

唯一の心残りは、終わったら会場に隣接する温泉施設に汗を流しに行こうと思っていましたが、あまりにも日焼けがひどく、浴槽に入れる状態ではなかったもので、断念しました。

「次回、東京のジャンボリーでまた会いましょう」との声がスタッフの間で出ており、体力的にはきついながらも、それを心待ちしそうな自分がいて、それほど充実した10日間でした。



安全管理班のメンバー



安全管理班第4班のメンバー：筆者右側



メインゲートでの警備

輸送部で奉仕

杉並3団RS隊, CS隊副長補 石原 滉士

僕は3年前に山口県きらら浜で行われた23WSJに、スカウトとして参加した。この時の2週間は、今まで体験できなかった野営や交流などを体験でき、とても楽しかった。一方会場で目に入るIST(国際サービス員)がとても生き生きと活動しているのを見て、次の17NSJにはスタッフとして参加したいと考えていた。

17NSJへの参加申し込みはしたものの、23WSJの時のように事前集会在特にあつた訳ではなく、大学生活が忙しかつたので直前まで本当に参加するのかな、という気持ちになっていたが、会場へ向かう高速バスに乗ると、やはり高揚感が増えてきて、ほとんど寝られなかつた。やはりジャンボリーは普通のキャンプとは違うなと感じた。

17NSJでは輸送部という部署に配属された。仕事内容としては、主にスカウトの入退場のバスやプログラムバス、シャトルバスの誘導や、会場周辺での一般車の規制を行っていた。

業務的にスカウトと直接接する機会はあまりなく、漁港や山奥でひたすら車と向き合うという、地味で裏方の仕事であつた。

その分、地元の方や警察、自衛隊の方と目を合わせる機会が多く、皆さんには挨拶を返して頂け、一般車には規制のため迂回をしていただくことがあつたが、嫌な顔をせず協力していただき、改めて多数の方のご理解、ご協力のもとでジャンボリーが成り立っているのだと感じる大会となつた。地元の方にはスイカをご馳走になったり、「ご苦労様」と声をかけていただいたりと、僕たちの励みとなつた。

他の部署より仕事の時間が短めだつたこともあり、空いている時間は年齢を問わずに色々なことを話せた。他地区のローバーの活動がいかに盛んということやローバーに聞けたり、カブの子とどう接すればいいかなどをカブ隊隊長経験者に相談できたり、ジャンボリーはどのような場であるべきかなど思い思いに語り合つたりと、本当に充実した一週間を送ることができた。

スタッフの撤収日、早朝からテントをたたみ、各地へ帰っていくのを見ると、ほろりときてしまった。今回の出会いは本当に良いものになつたと思う。

「わざわざ高いお金を払って、貴重な休みを潰してまでも、無賃でスタッフとして活動する意味ってなんだろうね」と、語り合つているときにも話題になつた。

でも誰もそんなことより、もっと良い経験、出会いができ、一生の思い出に残ると分かっているから集まるのだろうと感じた。



香港スカウトのホームステイ

あすなる地区各団の家庭では、ジャンボリーに参加後の香港スカウトのホームステイを受け入れました。

各家庭から香港スカウトとの国際交流の様子を寄稿いただきました。

ディズニーとガンダムへ 杉並4団BS隊 高木和弥の母 高木理津子

香港からのALEXとBILLYという14歳の男の子2人を受け入れました。

前もって、名前と年齢しか情報がなかったので、どう過ごすかは会ってから相談して決めようと思っていました。

行きたいところがあるか聞くと、「ディズニーとガンダム」と、リクエストが返ってきました。ALEXは特にガンダムが好きとのことで、我が家も私以外は皆ガンダム好きなので、帰宅した後はガンダムのゲームを一緒にしたりして遊びました。

「ディズニーシーに行きたい」ということになったのですが、前売り券が取れず、「お盆で混んでて入れないよ」と片言の英語で説明しました。通じたのか通じてないのか…？ALEXは自分でスマホで調べ、「チケットブースで買えばいい」というので、私はダメもとのつもりで連れて行きました。結果的にはすぐにチケットを買って入れました。

ディズニーシーでは乗りものに乗るため、とても待ちましたが、あきらめないでよかった！。長男はジャンボリー疲れでお留守番だったのが残念でしたが、楽しい思い出ができました。

ALEXが「成田の前にガンダムが見たい、BILLYはガンダムを見ないで成田に行く」言うので、BILLYがガンダムに興味がないことは分かったけれど、「BILLYも一緒に行こうよ」というと「OK」と言ってくれました。電車を調べ、お台場で11時にガンダムが変形するのを見てから成田へ行くスケジュールを立てて、紙に書いて家を出る時間を伝えました。

朝、出かける時間になってもALEXはのんびりしていて、全然支度が終わりません。結局だいぶ遅い出発になり、速足でお台場に向ってギリギリ間に合い、ガンダムが変形するのを見ることができました。

またすぐに電車で成田に向かわなければ、成田に集合する13時半に間に合わない時間でしたが、ALEXはショップを見に行ってしまう、戻ってきません。

私は慌ててしまいました。BILLYは文句も言わず待ち、ALEXが戻ってきてすぐに大急ぎで駅に向かいました。ALEXは素早くスマホで電車を調べ、「これで行けばいい」と教えてくれました。（13時半には全然間に合わない電車でしたが…）

最初から、13時半に成田着の条件で、ALEXに計画を立ててもらえばよかったなあ、と思いました。遅刻の皆様にご迷惑おかけして申し訳ありませんでした。

海外でもしっかり自己主張し、自分で何でも調べる行動派のALEX。どんな状況でも穏やかで辛抱強く、いつも楽しんでいるBILLY。「やっぱりスカウトは頼もしいなあ」、とあらためて思ったホームステイ受け入れでした。



マリオで仲良く 杉並11団CS隊 藤原滉矢の父 藤原 誠

小学校4年生カブスカウトである息子の希望で、ホストファミリーとしての受け入れ希望を出し、香港の14歳男子スカウト2名を受け入れることになりました。

息子はうちに来るスカウトの名前を書いたプラカードを自分で作り、自己紹介を英語でできるように練習を重ねていました。しかし、お迎え当日、プラカードを手に持つ姿はワクワクの期待感というより、不安でいっぱいという感じでスカウトたちを待っていました。

顔合わせでは、いざ目の前に大きなお兄ちゃんが来ると、緊張のあまり練習したはずのフレーズも声小さくなり、言いたいことが伝わらないため、気が小さくなってしまいました。自宅までの電車の移動中もほとんど会話ができず、親としては早く仲良くなれるように声をかけていましたが、なかなかうまくいきません。

家につき、一段落したところで、2人に日本で行きたい場所や、食べたいもの、趣味などを聞いていたら、うち1

人はWiiを持っていて、マリオのゲームが好きだということが分かりました。妻と私は、恥ずかしがる息子に半ば強引に「Wiiを一緒にしよう！」と誘いなさいと勧め、息子は泣きべそかきながらも「マリオをやろう」と、身振り手振りで頑張って伝えることができ、一緒にゲームを始めました。

始めるや否や、お互いに大きな声を出し合い、笑い合い、息子も「Oh, my god!」を連発し、氷が解けるように一気に仲良くなることができました。こんなところにゲームのメリットがあったとは、少し考えが変わりました。

次の日、驚きが待っていました。スカウトのお土産を買いたいとの希望を叶えるため、地元のスーパー、スカウトショップ、秋葉原のプラモデル屋に行くことにしました。買い物の間、スマホで家族とやり取りをしたり、値段を調べたりして、買うものを決めていましたが、一人の子が噂の「爆買い」を始めたのです。成田空港までの交通費を取っておくように言ったのですが、スカウトショップでも片っ端から購入し、帰際に確認すると交通費が足りないことがわかり、交通費プラスアルファ分の返品に対応して頂きました。

そこで終わればよかったのですが、秋葉原のプラモデル屋に行く途中に見かけた物がどうしても欲しくて、他のスカウトにお金を借りてまで購入…。

日本の方が安い物、日本でしか買えない物があるので、仕方がない気もしましたが、私達の感覚とは違う、文化の違い(なのか)を垣間見ることができました。

いろいろな考え、文化、習慣の違いがあることを学ぶことができ、子供にとっても、家族にとってもいい経験となりました。



バスケットで交流 杉並9団BS隊 高見玲英の母 高見 未知子

我が家には息子が三人おり、長男と次男は中学生で、同年代の海外スカウトと交流できることをとても楽しみにしていました。そして今回、香港スカウトの12歳と14歳の男の子が来てくれました。

到着日は日本ジャンボリーで疲れていると思い、近所で「私達の日常」を体験してもらうことにしました。

まずは一緒に買物へ。スーパーに行き、夕飯の食材を一緒に選びました。中華料理のレトルト商品や、混ぜるだけの素がたくさん売っていることを知り、感心していました。

夕飯は手巻き寿司で、納豆巻を初体験。私がネバネバと納豆を練っている間、二人の視線は手元に釘付け！海苔の上にご飯と少量の納豆を恐々と乗せて、一気に口の中へ。二人は暫くモグモグと口を動かしたあと、「…Not bad!」と言。「食べられるが美味しいとは思えない…、というレベルってことだね」と三男と笑いました。

食後は近所の子達と花火を楽しみました。「香港では建物が密集しているため、花火は禁止されているのです！」と初めての手持ち花火に大興奮。三男と近所の男の子たちがグルグルと花火を回したり、2本同時に点けたりする様子を見て、一緒に同じようにはしゃいでいました。

翌日は浅草と東京タワーに行きました。浅草では夏休みとあって大勢の人。「たくさんの人だね～」と言うと、「香港ではこのくらい普通です」とのこと。逆に私と次男の方が人混みに押され気味でした。

浅草寺ではおみくじに挑戦。漢字を理解できるので、おみくじの内容がわかり、みんなで盛り上がりました。「凶が出てしまった場合は、細く折り畳み結ぶと悪い運気を境内に留めてもらい、悪いことが起こらなくなるんだよ」と説明すると、「そうなんだ!」と言って境内の柵に結んでいました。

東京タワーではトップデッキツアーに参加。展望台に真下が見える窓があり、その上で押し合いをしたり、小さくジャンプしたりして、はしゃいでいました。

夕飯は肉じゃがなどの家庭料理。食事をしながら香港の食材の話、親戚が頻りに集まり外食する話、ビルが密集しており、自宅が高層階にある話など、色々と話を英語でしましたが、たまに漢字を使って筆談もしました。

その後、寝るまでの間はスマホタイム。何を熱心に見ているのかと聞くと、バスケットがとても好きで試合を観ていること。それならば!と次男が急遽バスケット好きのお友達二人に連絡。

翌朝、バスケットボールができる川沿いの場所に自転車で集合し、1時間ほど遊びました。次男が言うには3日間の中で、二人ともこの時が一番楽しそうだったそうです。色んな観光地に行くより、言葉は通じなくても同年代の子同士と一緒に交流するのが一番楽しいのかもしれない。

短い時間でしたが、私達はとても楽しく貴重な時間を過ごさせていただきました。ホームステイしてくれた二人も同じ気持ちでいてくれたら幸いです。

今回の出会いと経験を大切に、今後も子供達の経験のためのお手伝いできたらと思っています。



ベンチャープロジェクトとして 杉並3団 VS隊 秦 ゆかり

以前からホームステイ受け入れに関心があったため、ベンチャープロジェクトの「国際文化」分野の挑戦として、今回のプログラムに参加することを決意した。

受け入れにあたって部屋の問題や言葉の壁など、不安要素はいくつかあったものの、実際始まってしまうと3日間があつという間だった。

香港の3名の女子スカウトは性格がみな温厚で、国の違いを全く感じなかった。きっとボーイスカウトのメンバーだという共通点が、互いの信頼感を気づくのに大きく貢献していたのだと思う。

1日目は彼女らがひどく疲れていることを予想し、入浴と夕食のみの予定だったが、思いのほか彼女らに元気があり、夕食後に花火をしておしゃべりしたり、世界共通のトランプやUNOカードゲームで遊んだり、楽しい時間を過ごすことができた。

2日目の東京観光は、彼女らの希望をよく聞いたうえでルートを決めたため、浅草と水道橋のスカウトショップ、原宿竹下通りと、スムーズに進めることができた。観光よりも買い物のほうに重点を置いていたことに驚いた。

3日目の朝、出発までに時間があつたため、折り紙を提案したところ、3人とも器用に折っていて驚いた。

帰りは車の中で3人とも熟睡していて、3日間のホームステイを満喫したのだろう…と安心した。

受け入れまでの段取りをしてくださった東京連盟の方々、お忙しい中送迎してくださったリーダー、受け入れ前の準備から期間中の食事の準備など、多くの場面で力になってくれた家族に感謝したい。

